

HIDASHIN

DISCLOSURE 2022

飛驒信用組合の現況

[令和3年4月1日～令和4年3月31日]



地域とともに
サステナブルな未来を
創造します。



ごあいさつ

平素は、飛驒信用組合に格別のご愛顧、お引き立てを賜り、厚くお礼申しあげます。本年も当組合の経営内容につきましてご理解を深めていただきますよう、ディスクロージャー誌「HIDASHIN DISCLOSURE 2022」を作成しましたのでご覧いただければ幸いです。

さて、当期のわが国経済を顧みますと、新型コロナウイルスの変異株の相次ぐ出現とともに感染拡大が断続的に繰り返され、緊急事態宣言等の発出による人の移動や行動制限といった経済活動の自粛から、サービス関連消費が低迷したほか、半導体や自動車部品などの供給制約を受けた生産への影響が重石となり、全体として弱い動きとなりました。

一方金融情勢は、ロシアのウクライナへの軍事侵攻以降、資源価格が騰勢を強めるなか、米連邦準備理事会（FRB）が高インフレの抑制に向けて0.25%の利上げに踏み切りましたが、2年ぶりのゼロ金利解除により、株価の大幅な調整や円安が加速するなど、年度末にかけて金融市場が大きく動揺しました。

当地区におきましては、ワクチン接種の進展に伴って社会活動再開の動きもみられました。また、コロナ禍の影響が深刻化して

り、観光関連事業を主に依然厳しい情態が続いています。

当該状況下で、新型コロナウイルス関連融資および各種制度利用による資金繰り、事業再構築支援等の金融仲介機能発揮と併せ、「さるぼぼコイン」、クラウドファンディングの自治体施策との連携といった地域支援に努めた結果、期末預金2,918億円、期末貸出金1,186億円と業容は着実に推移し、資金運用収益の増加を主因に、当期純利益9億62百万円を計上することができました。

新年度の景気動向を眺めますと、世界的なインフレ不安が一段と深まっており、主要国の金融政策動向に加え、ウクライナ情勢を巡る地政学的リスクにより、先行きの不確実性がさらに高まる状況にあります。

かような経営環境のもと、当組合は、新中期経営計画に掲げる「サステナビリティ経営」を追求し、地域の課題解決とともにDXへの取り組み推進により、お客さまの視点に立った利便性の高いサービス提供に全力を傾注してまいりますので、一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年6月

理事長 大原 誠

飛驒信用組合の現況

- | | | | |
|----|------------------|----|---------------------|
| 1 | ごあいさつ | 23 | リスク管理体制について |
| 3 | ひだしんと地域社会 | 25 | 内部統制基本方針 |
| 5 | 令和3年度業績のご報告 | 26 | お客さまの情報の管理 |
| 6 | ひだしのあゆみ | 27 | 苦情対応・紛争解決措置等の概要について |
| 7 | ひだしんトピックス | 29 | 信用組合と総代会制度について |
| 9 | 地域貢献活動 | 31 | 組織図 |
| 11 | 地域密着型金融の取り組みについて | 32 | 報酬体系について |
| 17 | さらなる金融仲介機能の発揮 | 33 | 業務のご案内 |
| 21 | 店舗のご案内 | 35 | 主な手数料のご案内 |
| 22 | コンプライアンス体制について | | |

HIDASHIN DISCLOSURE 2022

当組合の概要

(令和4年3月31日現在)

名称	飛驒信用組合
略称	ひだしん
本店所在地	高山市花岡町1丁目13番地1
設立	昭和29年9月28日
営業区域	高山市・飛驒市・白川村
店舗数	16ヵ店 他に店舗外ATM21ヵ店
自己資本額	271億円
組合員数	24,703名
預金積金	2,918億円
貸出金	1,186億円

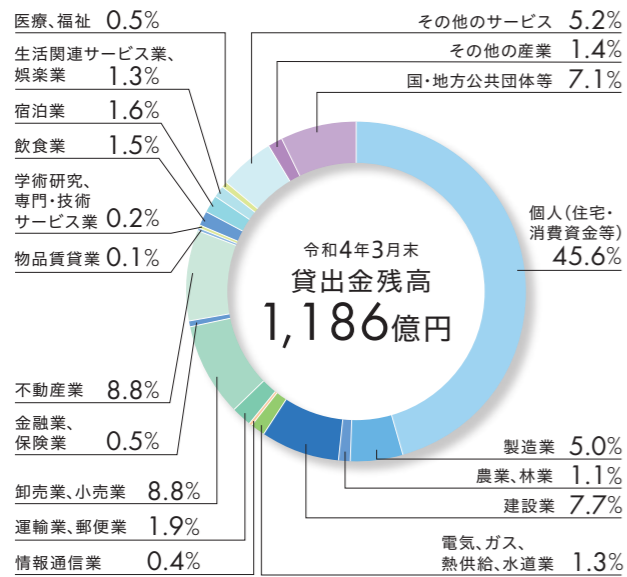
経営理念

- 1 地域金融を通じ、地域社会の発展に貢献します。
- 2 お客さまの声を経営に反映し、質の高い金融サービスを提供します。
- 3 金融機関としての社会的責任と公共的使命を念頭に、法令遵守態勢の徹底と高い企業倫理の確立に努めます。

お客さまへのご融資について

お客さまからお預かりした大切なご預金は、小口・多数利用の原則に立ち、地元中小企業の皆さまへのご融資のほか、住宅ローン、消費者ローン等勤労者向けご融資を積極的に取り組んでおります。
今後も、資金ニーズに幅広くお応えできるよう融資商品の充実に努めてまいります。

貸出金の業種別構成

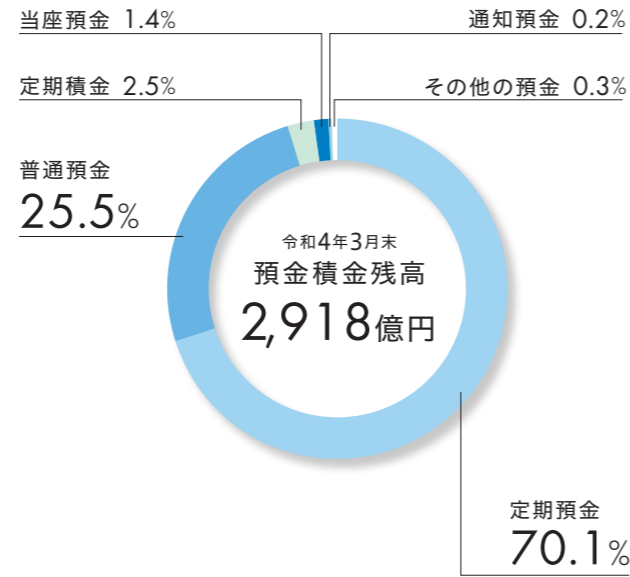


◀ 詳しくは、資料編7ページをご覧ください。

お客さまからのご預金について

当組合は、お客さまの着実な資産づくりのお手伝いをさせていただくため、各種商品を取り揃えております。
また、より一層のサービスの充実に向けて新商品の開発に取り組んでおります。

預金積金の科目別構成



◀ 詳しくは、資料編1ページをご覧ください。

今期の決算について

令和4年度3月期の決算は、資金運用収支の増加を主因に、当期純利益9億62百万円を計上することができました。

■ 業務純益 14億87百万円

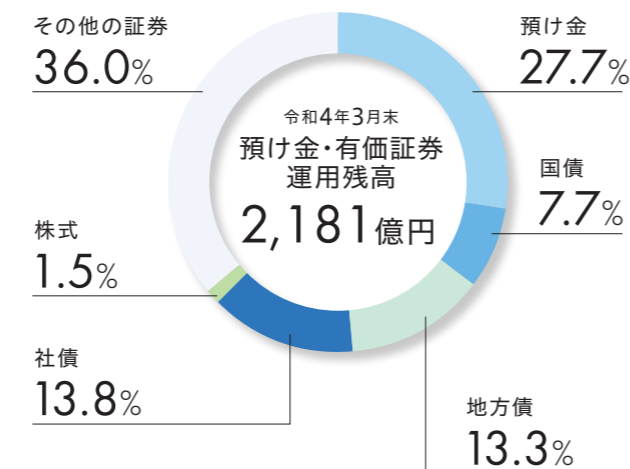
■ 経常利益 13億59百万円

■ 当期純利益 9億62百万円

ご融資以外の運用について

当組合はお客さまからのご預金をご融資のほか、預け金や有価証券等により運用を行っております。
このうち預け金は、主に全国信用協同組合連合会の定期預金に、有価証券は高格付債権を中心とした運用に努めております。

預け金・有価証券の運用構成



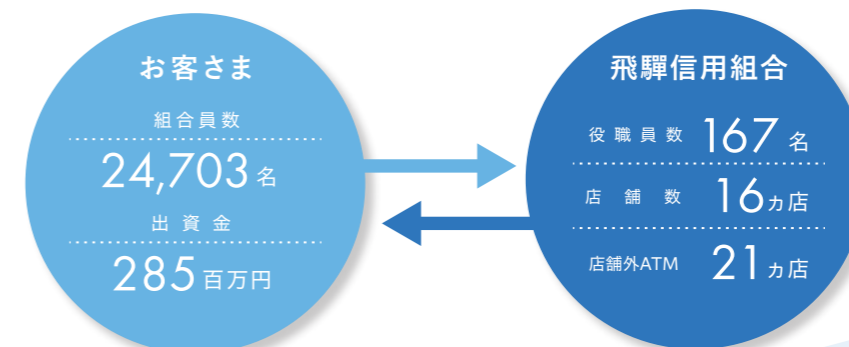
◀ 詳しくは、資料編1ページをご覧ください。



ひだしんと地域社会

当組合は高山市、飛騨市、白川村を営業区域として金融サービスを提供しており、地域の皆さまからお預けいただいたご預金は、地元企業の事業活動のための資金や当地域にお住まいの方が住宅や自動車をご購入される際の資金などへのご融資としてご利用いただいております。

また、金融機能の提供に留まらず企業経営・人材育成・文化活動・スポーツ活動といった面も視野に入れて広く地域社会の活性化に努めております。



REPORT 2022

ひだしんのあゆみ

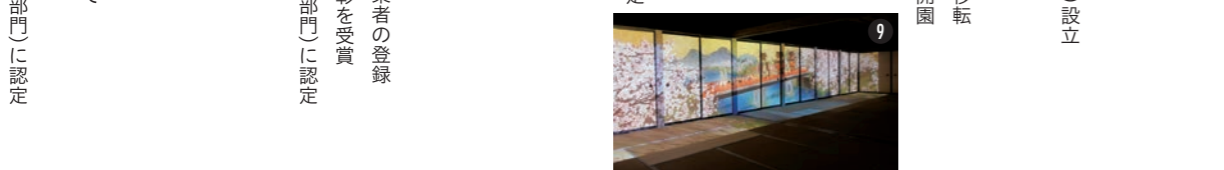
昭和29年 飛騨商工信用組合設立 ①
 29年9月 初代理事長に北村長之助就任
 10月 高山市本町2丁目7番地で営業開始
 31年5月 本店を本町1丁目2番地へ移転 ②
 33年5月 理事長北村長之助逝去
 9月 古川町式之町に古川支店開設
 34年7月 二代理事長に安達彌太郎就任 ③
 36年6月 神岡町堀川町2丁目に神岡支店開設
 40年12月 古川支店を金森町に新築移転
 41年12月 七日町2丁目に七日町支店開設
 44年4月 森下町1丁目に山王支店開設
 46年3月 理事長安達彌太郎退任
 三代理事長に稲田秋平就任
 47年4月 昭和町1丁目に松倉支店開設
 49年4月 飛騨信用組合に改称
 50年8月 七日町支店を七日町3丁目に新築移転
 昭和50年 新築移転
 51年3月 下岡本町に中山支店開設
 53年10月 西之一色町3丁目に松泰寺支店開設
 55年7月 国府町広瀬町に国府支店開設
 56年6月 自営オンラインシステム稼働 ④
 12月 本店新築 本店新築記念式典挙行
 58年8月 松之木町に東山支店開設
 59年11月 中山支店新築
 ひだしん経営研究会発足 ⑤
 60年10月 国府支店新築移転
 11月 吹屋町に城山支店開設
 63年5月 石浦町に新事務センター完成
 1年8月 理事長稲田秋平会長に就任
 四代理事長に前田修平就任
 2年8月 松倉支店を昭和町2丁目に新築移転
 平成1年 昭和60年



平成10年 3年3月 松泰寺支店を西之一色町1丁目に新築移転
 4年8月 会長稲田秋平逝去
 10月 日銀歳入復代理店・外国為替業務を開始
 5年10月 神岡支店新築
 6年10月 創立40周年記念式典挙行 ⑥
 11月 古川町栄2丁目に西古川支店開設
 12月 山王支店新築
 8年9月 城山支店新築
 9年5月 石浦町5丁目に石浦支店開設
 6月 「松倉支店」を「けやき通り支店」に名称変更
 11年11月 中山支店を下岡本町3078番地に新築移転
 12月 高山市指定金融機関に指定される
 13年11月 下林町に西高校前支店開設
 14年12月 古川支店新築
 16年10月 創立50周年記念式典挙行 ⑦
 11月 三福寺町に三福寺支店開設
 17年10月 ひだしん会青年部会発足
 18年5月 郵貯ATM提携入金業務開始
 19年12月 岐阜大学と「産学連携協定」締結
 20年5月 岐阜県子育て支援企業登録制度取り組み開始
 21年6月 五代理事長に林謙二就任
 10月 飛騨市指定金融機関業務開始
 22年3月 創立55周年記念寄付金贈呈
 24年9月 ひだしんさるぼぼ倶楽部発足
 25年6月 理事長林謙三会長に就任
 六代理事長に大原誠就任
 9月 花岡町に本店営業部新築移転 ⑧
 26年3月 東海財務局より平成25年度地域密着型金融に関する取り組みにおける顕彰受賞
 平成20年 平成30年



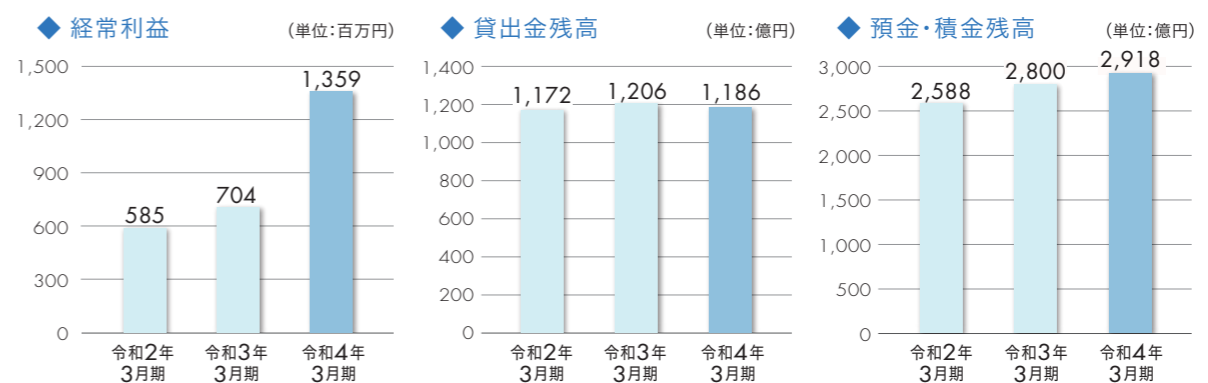
令和4年 7月 無料相談所「BizCon.HIDA」開設
 8月 クラウドファンディング
 「FAVO飛騨・高山」運営開始
 11月 当組合100%出資子会社
 ひだしんイノベーションパートナーズ(株)設立
 27年2月 「飛騨・高山さるぼぼ結ファンド」設立
 11月 東山支店を駿河屋エブリ東山店内にISB(インスタアプランチ)として新築移転
 飛騨市古川町にて安達藤園を復旧整備し開園
 高山市制80周年を記念し50万円を寄付
 高山市丹生川支所内に「丹生川出張所」開設
 高山陣屋にてプロジェクト「マッピングを実施」 ⑨
 平成28年度「地方創生に資する金融機関等の特徴的な取組事例」で表彰
 岐阜県子育て支援エクセレント企業に認定
 「電子地域通貨さるぼぼコイン」リリース
 ニッキン賞受賞
 30年2月 「電子地域通貨」開始
 12月 「電子地域通貨さるぼぼコイン」リリース
 3月 紺綬章受章
 29年2月 平成28年度「地方創生に資する金融機関等の特徴的な取組事例」で表彰
 10月 第56回全国信用組合大会にて社会貢献表彰を受賞
 健康経営優良法人2020(中小規模法人部門)に認定
 サテライトオフィス
 「Furukawa Base」の開設
 令和2年度「地方創生に資する金融機関等の特徴的な取組事例」で表彰
 八代理事長に大原誠就任
 6月 第7回サステナブルファイナンス大賞にて地域金融賞を受賞
 3月 2022健康経営優良法人(中小規模法人部門)に認定
 令和3年 令和2年 令和1年 平成30年



預金・積金
 夏・冬のキャンペーン定期預金や年金振込口座及び給与振込口座の推進による預金獲得等により、前期比117億39百万円増加(年率4.19%増)し、期末残高は2,918億9百万円となりました。

貸出金
 コロナ禍で影響を受ける中小企業、個人事業主に対する幅広い支援と併せ、個人向けの住宅ローン、消費者ローン等の積極的推進を図ったものの、総融資残高は前期比19億98百万円減少(年率1.65%減)し、期末残高は1,186億82百万円となりました。

収益
 新型コロナウイルスの影響が長期化するも、日本銀行による金融緩和の継続や政府による景気刺激策によりマーケットが回復する中、経営全般に亘る合理化・効率化の徹底と資金運用に注力した結果、経常利益は13億59百万円・当期純利益9億62百万円を計上することができました。

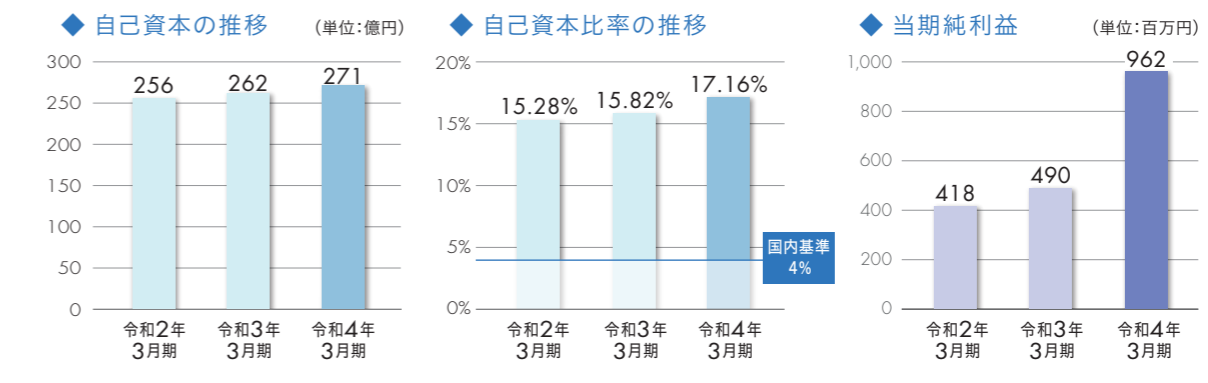


自己資本比率
 (令和4年3月期) **17.16%**

自己資本額
 (令和4年3月期) **271 億円**

自己資本比率の推移
 自己資本比率は、貸出金や有価証券等の「リスク資産(リスク・アセット等)」に対する出資金や内部留保等の「自己資本」の割合を示す数値で、金融機関の健全性・安全性を測る重要な指標です。自己資本比率は、国内基準で4%以上でなければならぬとされていますが、当組合は一貫して自己資本の充実と健全性に努めてきました。結果、令和4年3月末の自己資本比率は**17.16%**となり、国内基準の4倍を超える高い水準にあります。

自己資本の推移
 当組合は、長年にわたり利益からの蓄積である、特別積立金(無コスト資金)を中心に自己資本の増強に努めてきました。結果、令和4年3月末の自己資本は、**271億円**と健全な体質を堅持しております。



*上記の詳細につきましては、資料編11ページの「自己資本の充実の状況等について」をご覧ください。

HIDASHIN Topics

ひだしんトピックス

TOPICS 01

第7回サステナブル
ファイナンス大賞
「地域金融賞」を受賞!

当組合は、一般社団法人環境金融研究機構(RIEF)が実施する第7回サステナブルファイナンス大賞において、全国の信用組合で唯一、岐阜県内初となる地域金融賞を受賞しました。「よるぼコイン」による行政等と連携した取り組みが総合的に地域消費の活性化に寄与し、本来業務の枠を超えて地域の持続可能性に貢献したと評価されました。



TOPICS 02

2022健康経営優良法人
に認定

当組合は、地域の健康課題に即した取り組みや、日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する「2022健康経営優良法人(中小規模法人部門)」に認定されました。



TOPICS 03

商工組合中央金庫と
業務連携

令和4年3月23日(水)、当組合は商工組合中央金庫と「シンジケートローン業務」における連携協力を覚書を締結しました。当組合は、商工組合中央金庫と従来以上に連携を強化することで相乗効果を発揮し、地域経済の活性化に貢献してまいります。



TOPICS 04

セブン銀行
共同ATM設置

お客さまの利便性向上を目指し、一部店外ATMをセブン銀行との共同ATMへ切り替えました。また、セブン銀行ATMは「さるぼコイン」のチャージが可能であることから飛騨地域でのさるぼコインチャージスポットが増加しました。



ひだしん会

毎年著名な講師を招いて講演会を開催しております。



第114回 東国原 英夫 先生
(元宮崎県知事・前衆議院議員)



第113回 山田 邦子 先生
(タレント)



第112回 門倉 貴史 先生
(エコノミスト・BRIC経済研究所代表)

HIDASHIN TOPICS 企業支援・人材育成

ひだしん

青年部会

地元若手経営者の研修・育成を目的として、平成17年度に発足しました。会員は50歳までの経営者またはその後継者で、講演会や勉強会等様々な活動を行っています。



第45回 高島 健一 先生
(新規事業アドバイザー)



第44回 岡田 晃 先生
(大阪経済大学客員教授・経済評論家)



地域貢献活動

社会貢献

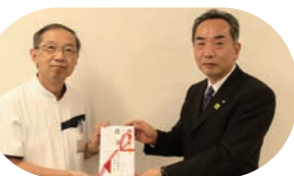
企業版ふるさと納税

飛騨市へ200万円

「企業版ふるさと納税制度」を活用し、「飛騨市の地方創生に資するプロジェクト」へ200万円の寄付を行いました。



「飛騨・高山ふるさと預金」の取り組みの一環として寄付を行いました。



献血活動

ひだしん本店・中山支店にて献血を行いました。



文化・スポーツ支援

飛騨高山ブラックブルズ岐阜

地元の女子ハンドボールチームである「飛騨高山ブラックブルズ岐阜」をスポンサーとして支援しています。



スマートフォン上で利用できる飛騨地域限定の電子地域通貨です。



さるぼぼコイン

ユーザー数	25,886人
加盟店数	1,835店舗
累計流通額	60億円

※令和4年6月末現在

高山市役所・

飛騨市役所の庁舎内に

チャージ機設置

利用の多い高山市役所・飛騨市役所へチャージ機を設置し、ユーザーの利便性向上を図りました。



岐阜県の観光消費の拡大&

観光DXを支援する

電子観光クーポン事業

「ぎふ旅コイン」と連携

新型コロナウイルス感染症により深刻な被害を受けている県内観光事業を支援するため、岐阜県と一般社団法人岐阜県旅行業協会、岐阜県観光連盟が2021年10月15日より開始した電子観光クーポン事業。



飛騨市との連携

飛騨市ファンクラブ

会員証をアプリで表示



飛騨市まるごと

食べ歩き



飛騨市

子育て

応援

飛騨市子育て世帯応援キャンペーン

飛騨市移住奨励金に

「さるぼぼコイン」導入



さるぼぼコイン

教室開催

さるぼぼコインの基本的な操作方法や預金口座チャージに関するお悩みなどに対し、丁寧に説明させていただきました。



ほっこり飛騨高山

高速バス事業

新宿・大阪・京都・名古屋・岐阜からの高速バスと高山市内の宿泊がセットになったお得なプラン「ほっこり飛騨高山」が販売されました。プランの参加者全員に、飛騨高山観光客誘致推進協議会様より「さるぼぼポイント2,000円分」がプレゼントされました。

飛騨高山スマホで

お得な「高速バス」の旅

各地から飛騨高山間の高速バスを往復利用するお客さまを対象に、さるぼぼポイント1,000円と2,000円分をプレゼントするキャンペーンが行われました。

TBSテレビ系「がっちり

マンデー」、「NEWS 23」

にてさるぼぼコインが

紹介されました！



2 | BizCon.HIDA (Bizコンヒダ) の開設 (※図2)

① 動機 (経緯)	地域の事業者に対する各種相談対応やコンサルテーションを行う窓口は、商工会議所や商工会等の経済団体及び行政、そして各金融機関と複数存在する状況であり、またそれぞれが対応可能な相談内容に差異があることから、事業者にとっては『どこに相談すればよいか』が分かりづらい状況が存在していた。
② 概要	【提供サービス】 ・売上拡大サポート ・経営サポート ・起業・創業サポート ・情報発信 ・資金サポート ・専門家派遣の実施
③ 成果	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決 (資金調達の達成、売上の増加) による経営改善。 補助金を始め各種行政施策の情報獲得。 相談窓口の一本化による利便性の向上及び課題解決までの時間短縮。 取引先との関係深耕が図れ、また取引先の事業に対する理解が深まった。
④ 今後の展望	当該取り組みを通じ、コンサルティング機能をさらに強化し、他金融機関との差別化を図るとともに、地域の事業者との関係をより深化させることにより、地域から『選ばれる金融機関』となることを目指しております。

理念

1 BizCon.HIDAのミッション (任務・使命)

社会に対してこうなりたいという目的

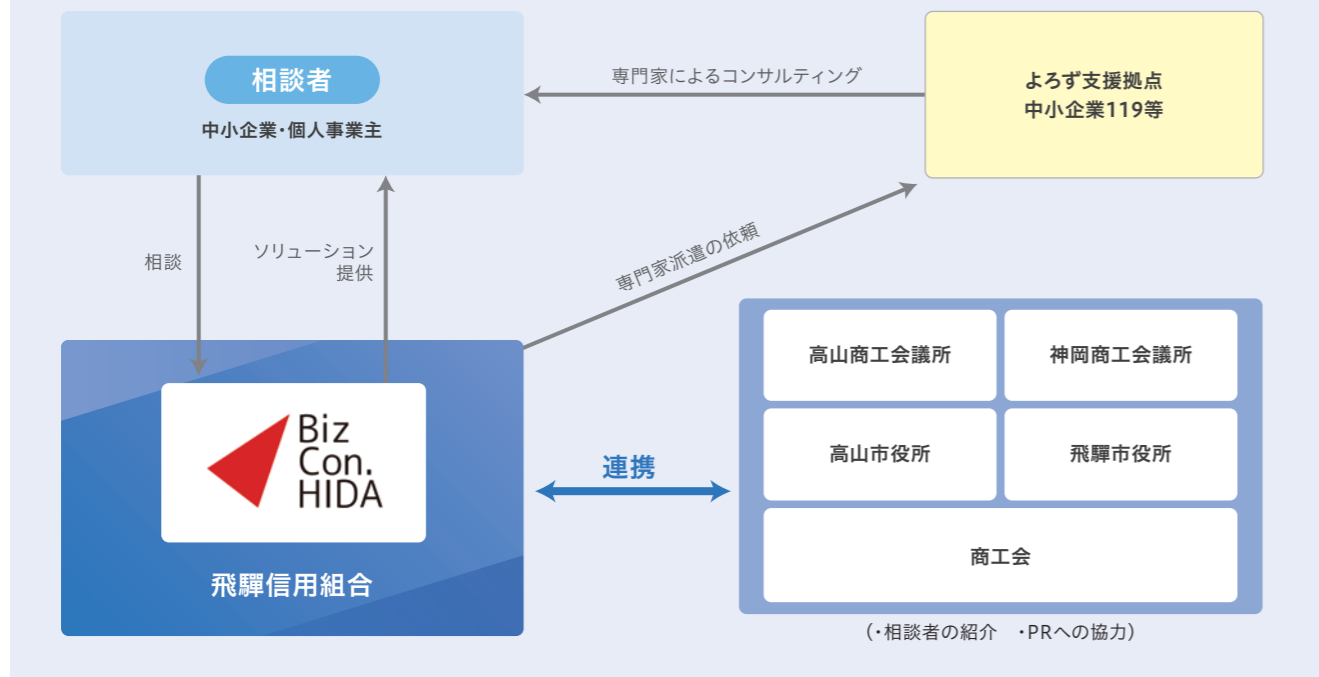
地域金融機関としての枠を越えた事業者支援、起業支援の役割を果たすことで、飛騨地域の経済発展に寄与すること。

2 BizCon.HIDAのビジョン (志・方向性)

組織としてこうなりたいという状態

地域の事業者の皆さまにとって最も身近で頼りになる相談相手となること。
事業者の皆さまにとってのコンシェルジュ (トータルソリューションリスト) となること。

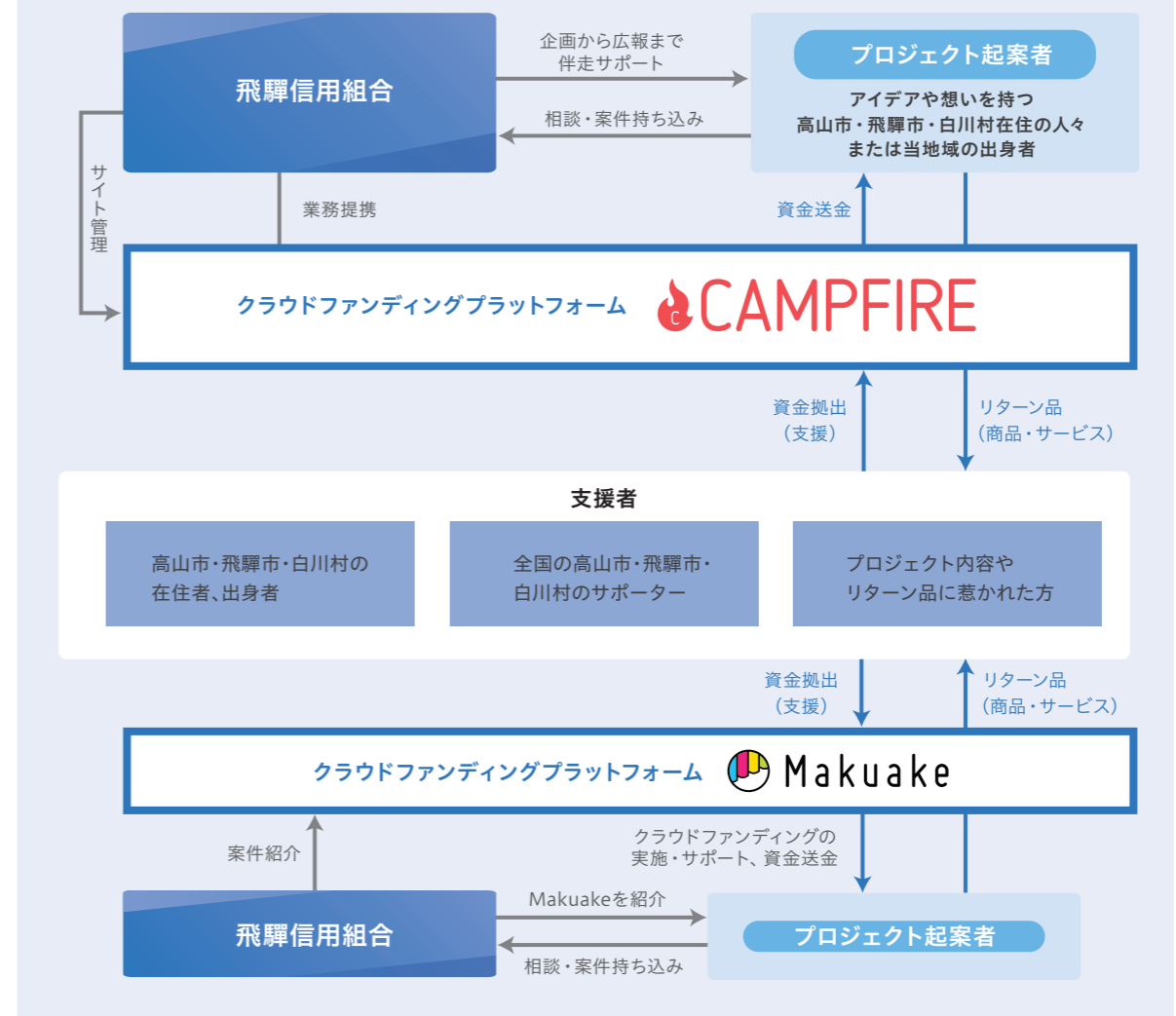
図2 BizCon.HIDAスキーム図



1 | クラウドファンディング飛騨・高山の取り組み (※図1)

① 動機 (経緯)	既存の資金供給メニューではフォローができなかったイベント開催費用、新規事業費用等の受け皿としてお客さまの様々なニーズにお応えすることを目的として導入。
② 概要	株式会社CAMPFIREおよび株式会社マクアケと業務提携し、飛騨地域に特化した購入型クラウドファンディングのサポート体制を整えている。(図1を参照)
③ 成果 (効果)	<p>【クラウドファンディング飛騨・高山の成果】 令和4年3月末までに100プロジェクトのファンディングをサポート。 累計支援額243,406,942円、支援者数21,249人。</p> <p>【当組合の成果】 地域法人・個人のプロジェクトを支援することによってお客さまとの関係性がより強固となり、新規融資、さるぼぼコイン加盟店の登録などの付帯取引増加に繋がっています。</p>
④ 今後の展望 (課題)	クラウドファンディングの市場が拡大していく中で、お客さまが検討される地域資源を活かした新商品・新サービスをより確実に全国へと届けていくために、融資等の金融取引とも連動した総合的な支援を提供いたします。

図1 クラウドファンディング飛騨・高山のスキーム図



「経営者保証に関するガイドライン」への対応

当組合では「経営者保証に関するガイドライン」の趣旨や内容を十分に踏まえ、お客さまからお借り入れや保証債務整理の相談を受けた際に真摯に対応する態勢を整備しています。経営者保証の必要性については、お客さまとの丁寧な対話により、法人と経営者の関係性や財務等の状況を把握し、同ガイドラインの記載内容を踏まえて十分に検討するなど、適切な対応に努めています。また、どのような改善を図れば経営者保証の解除の可能性が高まるかなどを具体的に説明し、経営改善支援を行っています。

■ 「経営者保証に関するガイドライン」の活用に係る取り組み事例

1 主債務者及び保証人の状況、事案の背景等

- 当社は地元の老舗事業者で当組合とはサブ取引先。
- 新社屋建設にあたり新規融資を必要とする情報を得たため、当組合から「経営者保証に関するガイドライン」に基づく経営者保証に依存しない融資の検討について打診したところ、当社からは是非検討してほしいとの申し出があった。

2 取組内容

- 当組合内での検討においては、以下の点を勘案し、経営者保証を求めない融資を行うこととなった。
 - ① 当社の事業用資産はおおむね当社の自己所有によるものであり、法人と経営者との区分・分離がなされていること
 - ② 現在の代表取締役は創業者一家の出身ではなく、従業員から代表者へ昇格した人物であること
 - ③ 現在、当社の業績、財務内容は良好であり、今後も利益計上が見込まれ、利益による債務の返済が十分可能であること
 - ④ 他行の後順位ではあるも、自社不動産に担保設定が可能であること
 - ⑤ 当組合との取引年数は比較的短いですが、取引開始以降、財務内容の積極的な開示が行われ、良好なリレーションシップが構築されており、取引状況も良好であること
- 当該融資については他行とも競合しており、当組合の融資条件は金利等の点では他行に劣っていたものの、経営者保証を求めない点に関して取引先の高い評価を得られたことにより、ガイドラインに基づく融資を実行するに至った。

■ 「経営者保証に関するガイドライン」の取り組み状況

	令和2年度	令和3年度
新規に無保証で融資した件数	300件	214件
新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合	24.43%	24.60%
保証契約を解除した件数	30件	28件
経営者保証に関するガイドラインに基づく保証債務整理の成立件数 (当組合をメイン金融機関として実施したものに限り)	0件	0件

3 「飛騨・高山さるぼぼ結ファンド投資事業有限責任組合」について

当組合は、地域経済の活性化を目的とする「飛騨・高山さるぼぼ結ファンド投資事業有限責任組合」の1号ファンドを平成27年2月1日付で設立、2号ファンドを平成28年6月10日付で組成致しました。

ひだしんイノベーションパートナーズ株式会社、および、REVICキャピタル株式会社を無限責任組合員として組成した1号ファンドは、令和3年12月31日に約7年間の存続期間が満了となり、解散いたしました。

現在は、ひだしんイノベーションパートナーズ株式会社、および、ルネッサンスキャピタル株式会社を無限責任組合員として組成した2号ファンドを運営しております。

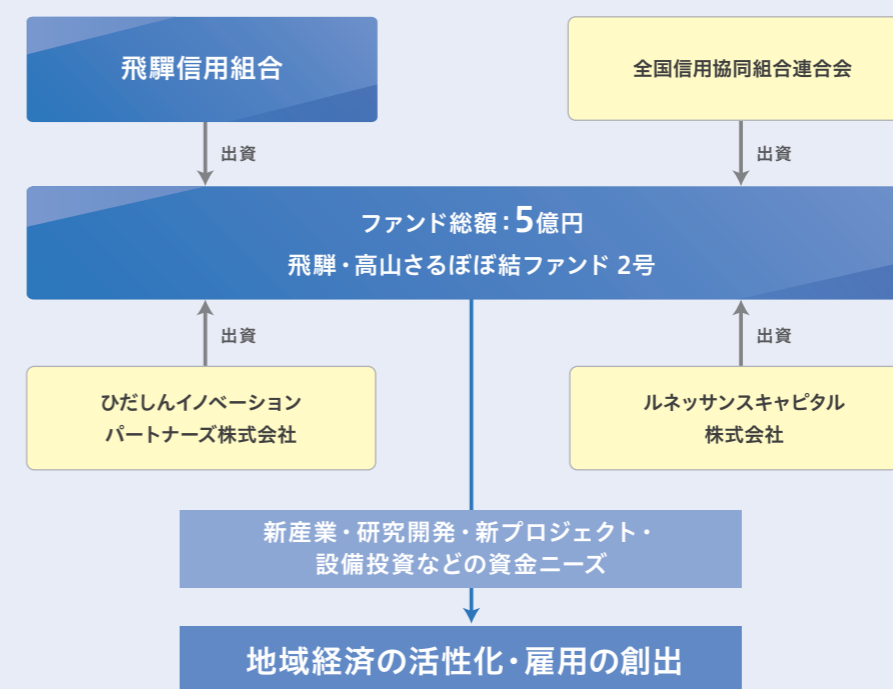
地域経済の活性化においては、『地域の元気』が必要であり、このファンドを通じて資本金の提供を行うことで、地域の皆さまの起業や新事業への展開を後押ししたいと考えております。

本ファンドの概要は以下の通りです。

名称	飛騨・高山さるぼぼ結ファンド 2号 投資事業有限責任組合
ファンド金額	5億円
組合員構成	飛騨信用組合 全国信用協同組合連合会 ひだしんイノベーションパートナーズ株式会社 ルネッサンスキャピタル株式会社
設立日	平成28年6月10日
業務運営者	ひだしんイノベーションパートナーズ株式会社 ルネッサンスキャピタル株式会社

(令和4年3月31日現在)

飛騨・高山地域活性化ファンド2号スキーム図



■ ③地域や利用者に対する積極的な情報発信

「金融仲介機能のベンチマーク」にかかる実績の開示をディスクロージャー誌やHPを通じて行いました。その他、地域密着型金融に関する活動や各種CSRに関する活動を「ふれあい通信」等を通じ地域に情報発信しました。

令和3年度 ふれあい通信発行部数	12部
------------------	-----

■ ④都市圏から地方への人材還流における人材ニーズや課題

他企業での勤務経験を有するUターン者を新規に採用し、新たなノウハウの注入を図りました。また、岐阜県プロフェッショナル人材戦略サテライト拠点としての機能を活かし、地域企業の中核人材の採用活動を支援しました。

3 令和4年度地域密着型金融の取組方針

■ 1.顧客企業に対するコンサルティング機能の発揮

金融仲介機能の発揮 【新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた企業の資金繰り支援】	新型コロナウイルス感染症の影響により資金繰りに不安を抱く企業からの相談に真摯に対応し、適正な資金供給を行います。
	企業の資金繰りをきめ細かく把握し、増大する既往債務の返済に窮している企業の条件変更の相談に迅速かつ柔軟に対応します。
金融仲介機能の強化	公的支援施策等の情報を的確に企業に提供する体制を構築のうえ、施策等の有効活用により企業の経営改善を支援します。
	【日常的な関係強化の姿勢】 顧客企業との継続的かつ良好な信頼関係の構築を図り、経営課題の克服に対し伴走型で支援します。
	【目利き能力の発揮】 顧客企業の強みを理解し、新たな事業分野等に取り組む企業を支援します。
	【外部専門家・外部機関との連携】 外部専門家・外部機関との連携を強化し、経営課題の解決に最適なソリューションを提供します。

■ 2.地方創生や地域経済活性化に向けた取り組みへの参画

地域経済活性化につながる取り組み	電子地域通貨「さるぼぼコイン」の機能強化と活用方法の周知により、地域課題を解決するとともに地域のDX推進をサポートし、地域の持続可能な未来を創造していきます。
	クラウドファンディングにより、新型コロナウイルスの影響からの復興や新分野にチャレンジするお客さまを支援します。
	地域外など非対面での買い物需要の高まりに対応するため、ECサイトにおけるさるぼぼコイン決済を推進し、地域活性化につながる事業者支援を行います。
CSR活動等の地域活性化事業への参画	地元企業や団体と連携し、新型コロナウイルスの影響を受ける事業者支援につながる地域内イベントや企画を実行します。
	行政や各種経済団体と連携し、地域観光事業推進に協力するほか、新型コロナウイルスに対する各種施策を進めます。 スポーツ振興や文化振興へ積極的に参画し、地域活性化に貢献します。

■ 3.地域や利用者に対する積極的な情報発信

地域密着型金融に関する取組情報の発信	ホームページやディスクロージャー誌を通じ、地域密着型金融の取組実績を積極的に開示します。 「金融仲介機能のベンチマーク」に関する実績を公表します。
地域活性化につながる情報発信	「ふれあい通信」や「Facebook」、電子メール「Synergy!」、「さるぼぼチャンネル」を通じ当組合の地域における取り組みを配信します。 地域メディアやアプリの通知を通じ、お得な金融情報や新商品の情報に加え、中小企業支援策等の情報を積極的に案内します。

■ 4.都市圏から地方への人材還流における人材ニーズや課題

都市部の人材の有効活用	地域内企業の中核人材不足解消のため、都市部の大手企業などで就業経験のある人材等の採用を支援します。 都市部の大手企業などで兼業・副業が解禁されていることを踏まえ、専門スキルを有し即戦力となるミドル社員の地域内企業への就業を促進します。
-------------	--

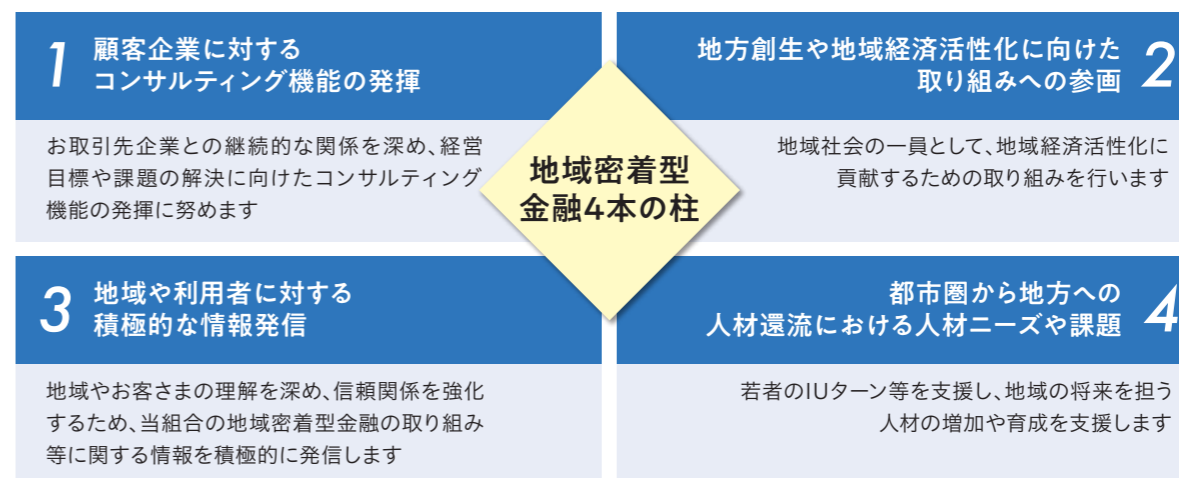
地域密着型金融について

1 地域密着型金融の推進

地域密着型金融の推進は、地域に根ざし、そして地域と共に歩む信用組合のあるべき姿であり、当組合は厳しい経済情勢にあっても、円滑な金融支援をはじめ地域金融機関としての役割を誠実に果たすことが、最大の地域貢献であると考えています。

当組合では、以下の4つの分野を柱とした取り組み施策を掲げ、地域密着型金融の推進に努めております。

■ 地域密着型金融イメージ

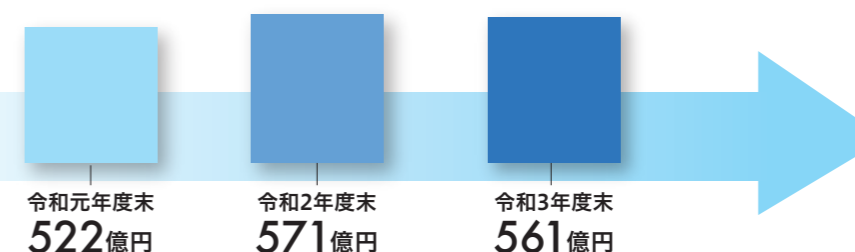


2 令和3年度地域密着型金融活動実績の概要

■ ①顧客企業に対するコンサルティング機能の発揮

新型コロナウイルスの感染拡大以降、積極的な資金供給に取り組んできたことから、新たな資金ニーズは落ち着きつつある中、コロナ禍の長期化の影響を受ける顧客企業の資金確保を支援するため、令和3年度においても新型コロナウイルスに係る融資を積極的に実行しました。また、資金繰り安定化のための条件変更の申し出に対して柔軟に対応し、企業の事業継続を支援しました。また、新分野への展開による事業再構築を図る企業に対し、補助金の申請支援および経営課題の解決支援等の金融仲介機能を発揮した取り組みを行いました。

中小企業向け融資残高の推移



■ ②地方創生や地域経済活性化に向けた取り組みへの参画

電子地域通貨「さるぼぼコイン」の決済機能の強化に引き続き努めると同時に、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた地域商店街や地域企業支援のための各種イベントを実施しました。また行政と連携したプロジェクトに積極的に取り組み、地域経済の活性化に貢献しました。これらのコイン機能活用やポイント還元等による支援活動の結果、地域における決済手段としての定着化が一層進んでいます。

その他、クラウドファンディングの取り組みや各種CSR活動への積極的な参画を通じて、地域の活性化に取り組まれました。

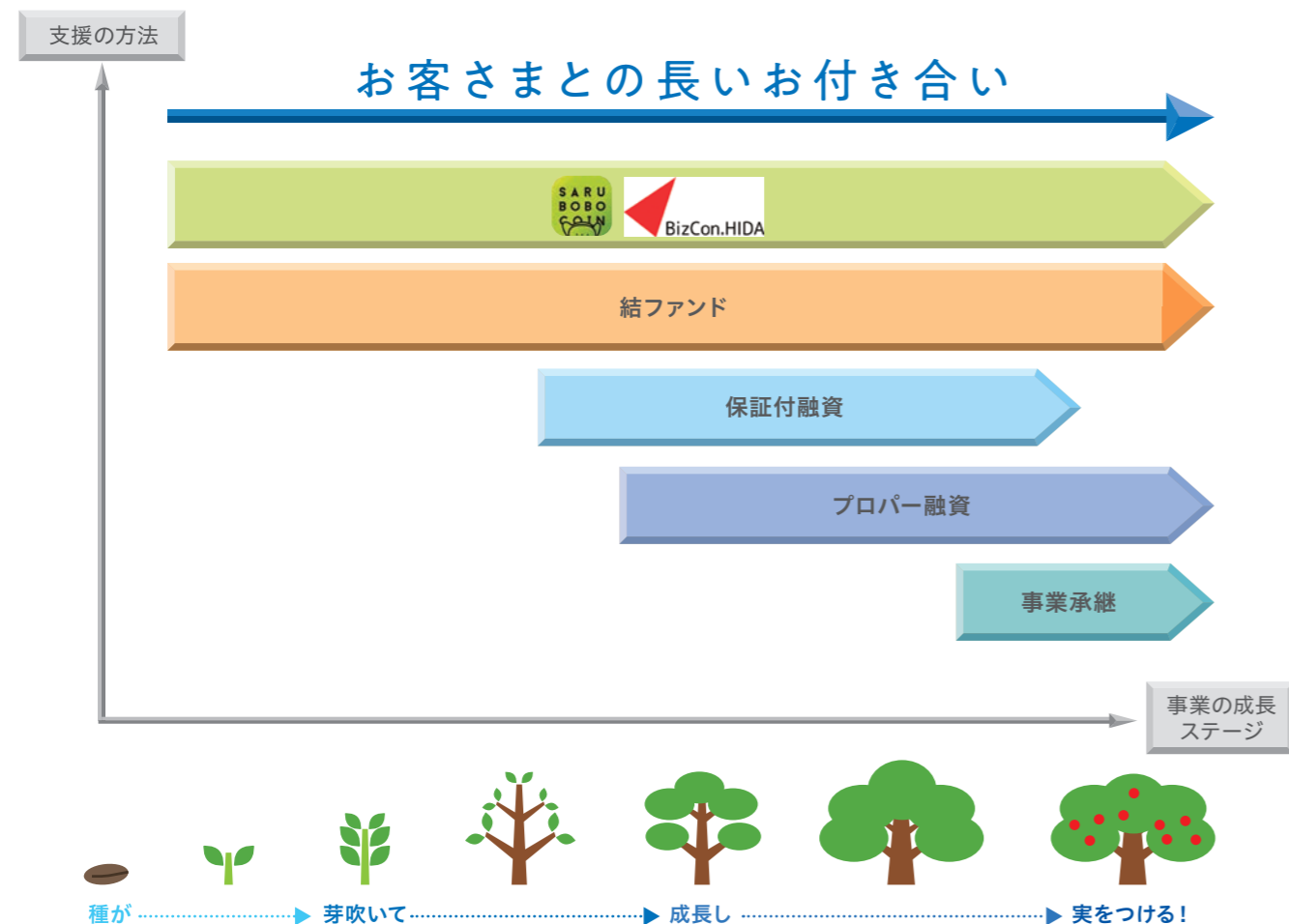
(令和4年3月31日現在)

さるぼぼコインユーザー数	25,116名
さるぼぼコイン加盟店数	1,715店舗
さるぼぼコイン決済累計金額	5,455百万円
令和3年度 クラウドファンディングサポート	18件(募集金額 約35百万円)

地域密着型金融と金融仲介機能のベンチマークの活用について

当組合では、金融仲介機能・コンサルティング機能の発揮、地域課題の解決・再生への積極的参画を通じ、地域中小企業の経営支援や地域の活性化に貢献していくことが社会的責任と考えております。

さらに、「金融仲介機能のベンチマーク」を活用しながら、客観的自己評価を行うことにより、取引企業先のニーズ・課題を把握し、外部専門機関との連携による実効性の高い経営支援に取り組んでまいります。



お取引事業者に対する経営支援・コンサルティング機能の発揮

(基準日: 令和4年3月31日)

ライフステージに応じた取引先企業の支援を行っています。地域の中小企業は、地域社会・地域経済を支える柱として重要な役割を担っています。当組合は、ライフステージに応じた経営支援に積極的に取り組み、地域発展に貢献してまいります。

金融仲介機能の共通ベンチマーク

	全与信先	創業期	成長期	安定期	低迷期	再生期
ライフステージ別の与信先数	1,516社	71社	732社	38社	6社	101社
ライフステージ別の与信残高	593億円	23億円	310億円	22億円	1億円	46億円

令和2年度に比べ、安定期の企業が減少する代わりに、成長期の企業が増加し、地域内企業の売上増加の鈍化、新型コロナウイルスの影響が表れた結果となりました。

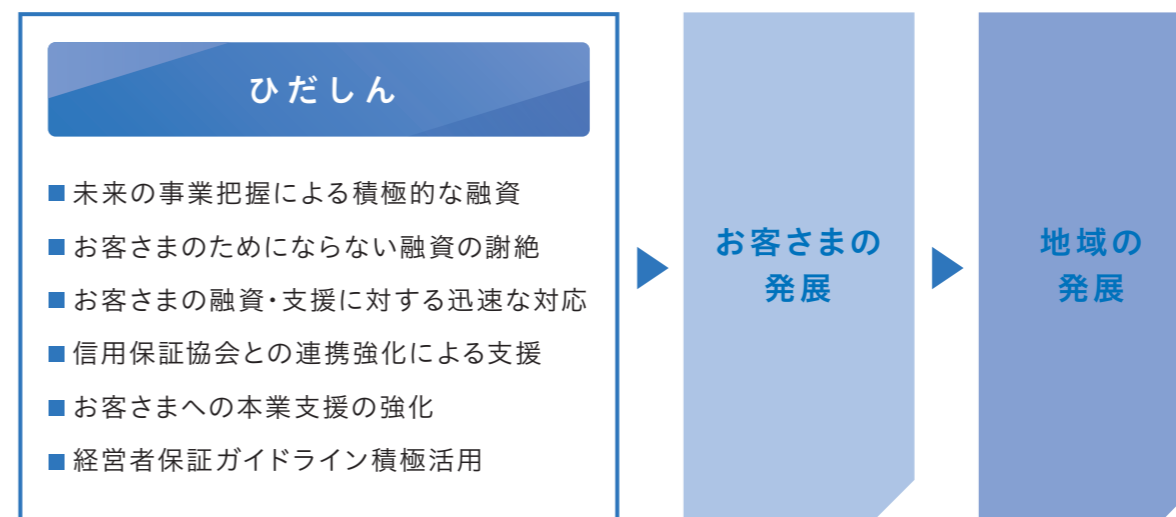
融資方針

■ 基本的な考え方

飛騨地域を取り巻く市場環境については、人口減少、事業先の廃業などを要因としたマーケットの縮小に加え、新型コロナウイルスによる経済活動の停滞、ウクライナ問題等を起因とした資源価格の高騰などの問題も生じており、非常に厳しい経営環境が続いています。

そのような中で、地域の発展に貢献していくため、行政、支援機関、各種団体との協力体制の構築を図ると共に、当組合の独自性を更に発揮、進化させ、「その取り組みは地域・お客さまのためになるかどうか」を最大の基本方針とし、様々な事業者支援手法を用いて、地域の発展に貢献していくこととしております。

「お客さまのためになるかどうか」が判断基準



金融仲介機能のベンチマークとは

金融機関の金融仲介機能(融資業務・コンサルティング業務など)に関して、金融機関の自己点検・評価、お客さまへの自主的開示、監督当局との対話の実施を目的とした、金融機関が採るべき指標です。

共通ベンチマーク	選択ベンチマーク	独自ベンチマーク
全金融機関が金融仲介機能の取り組みの進捗状況や課題等を評価するための指標	各金融機関が自身の事業戦略やビジネスモデル等を踏まえて選択できる指標	金融仲介の取り組みを自己評価するうえで、より相応しい指標がある場合に、金融機関が独自で設定できる指標

金融仲介機能の選択ベンチマーク

地元の中小企業と信先のうち、無担保と信先及び無担保融資額の割合	743先	20.6%
地元の中小企業と信先のうち、根抵当権を設定していないと信先割合	56.9%	
経営者保証に関するガイドライン活用先数及び全と信先に占める割合	78先	5.1%

☑ 担保・保証依存の融資体制からの転換を目的に、「経営者保証ガイドライン」の活用を含め、担保・保証に過度に依存しない事業性評価融資を、適切に推進してまいります。

金融仲介機能の選択ベンチマーク

外部専門家を活用して本業支援を行った先	5先
---------------------	----

金融仲介機能の独自ベンチマーク

BizCon.HIDA相談件数	139件
-----------------	------

☑ 「中小機構ハンズオン支援」「中小企業119」「よろず支援」を活用した外部専門家派遣による本業支援を積極的に行うとともに、当組合内のコンサルティングチームである「BizCon.HIDA」にて積極的な本業支援を行っています。

金融仲介機能の選択ベンチマーク

運転資金に占める短期資金の割合	22.7%
-----------------	-------

☑ お客さまへの訪問を通じ、事業サイクル、資金循環を適切に捉え、顧客ニーズに合致した資金提供を行うため、運転資金に対する短期資金融資を積極的に推進しています。

金融仲介機能の独自ベンチマーク

地域通貨(さるぼぼコイン)加盟店数	1,715店
-------------------	--------

☑ 地域通貨の導入を通じ、地域としての課題解決に取り組んでいます。

低迷期・再生期

(基準日:令和4年3月31日)

取引先企業と経営上の問題点、課題を共有し、ライフステージに応じたソリューションの提案、経営改善計画策定を支援しています。また、「岐阜県産業経済振興センター」「岐阜県よろず支援拠点」、「岐阜県中小企業活性化協議会」「中小企業119」と連携して、お取引先の経営改善支援に取り組んでいます。

金融仲介機能の共通ベンチマーク

	条件変更総数	好調先	順調先	不調先
当組合が貸付条件の変更を行っている中小企業の経営改善計画の進捗状況	130先	3先	18先	109先

☑ 飛騨地域に於いては人口減少と併せ、中小企業者数の減少も課題となっております。その課題解決に向けて、外部機関との連携を積極的に活用し、中小企業に対する経営改善支援を積極的に行っています。又、新型コロナウイルスに係る条件変更等の申出に対しても、柔軟に応じることとしています。

創業期

(基準日:令和4年3月31日)

地域経済の持続的発展に向けた取り組みとして、創業期の企業への円滑な資金供給に加え、事業計画策定支援、クラウドファンディングの活用に取り組んでいます。

金融仲介機能の共通ベンチマーク

当組合が関与した創業件数・二次創業件数	38件
---------------------	-----

☑ 岐阜県下でも特に飛騨地域は創業が活発な地域です。新型コロナウイルスの影響下に於いても、創業件数は増加傾向にあり、当組合は創業に関わる支援を引続き積極的に行ってまいります。

金融仲介機能の独自ベンチマーク

クラウドファンディングの相談件数	18件
補助金相談・支援相談先数	42先

☑ 創業に際しての新たなソリューションの提供手段として、CAMPFIREや飛騨高山さるぼぼ結ファンド2号などを通じたクラウドファンディング、ファンド事業を展開し、併せて補助金相談、事業計画策定支援などの相談業務も積極的に推進しています。

成長期・安定期

(基準日:令和4年3月31日)

取引先企業の事業内容を十分に理解し、担保・保証に必要以上に依存することなく、取引先企業の事業性評価を重視した融資や、BizCon.HIDAを活用したコンサルティング機能を発揮した企業の経営改善、生産性向上、成長力強化等の支援に取り組んでいます。

金融仲介機能の共通ベンチマーク

当組合がメインバンク(融資残高1位)である取引先数・融資残高	1,169先	566億円
上記のうち、経営指標等が改善した取引先数	739先	
上記のうち、経営指標等が改善した取引先の融資残高	358億円	

☑ 当組合メイン先数は増加傾向にあり、メイン取引先の内経営指標等が改善した取引先はメイン取引先の63%の739先となりました。

金融仲介機能の共通ベンチマーク

当組合が事業性評価に基づく融資を行っていると信先数及び融資額	748先	492億円
上記計数の全と信先数及び当該と信先の融資残高に占める割合	49.3%	83.0%

北エリア



高山第1エリア



高山第2エリア



高山第3エリア



◆ 店舗外ATM

店名	住所	電話番号
古川支店	飛騨市古川町金森町10番16号	0577-73-2621
西古川支店	飛騨市古川町栄2丁目1番1号	0577-73-6877
神岡支店	飛騨市神岡町船津933番地1	0578-82-1080
国府支店	高山市国府町広瀬町1038番地32	0577-72-2236
中山支店	高山市下岡本町3078番地	0577-34-3553
西高校前支店	高山市下林町910番地1	0577-35-5355
三福寺支店	高山市三福寺町375番地1	0577-37-1331
丹生川出張所	高山市丹生川町坊方2000番地 (高山市役所丹生川支所1階)	0577-78-2701
東山支店	高山市松之木町283番地1 (駿河屋エブリ東山店内)	0577-33-0648
本店営業部	高山市花岡町1丁目13番地1	0577-32-1080
七日町支店	高山市七日町3丁目123番地2	0577-32-1091
けやき通り支店	高山市昭和町2丁目153番地9	0577-32-1935
山王支店	高山市森下町1丁目53番地6	0577-33-0855
城山支店	高山市吹屋町66番地	0577-35-1135
松泰寺支店	高山市西之一色町1丁目88番地1	0577-34-6205
石浦支店	高山市石浦町5丁目396番地	0577-36-2002
本部	高山市花岡町1丁目13番地1	0577-32-4411
事務センター	高山市石浦町7丁目438番地	0577-34-6135

地域	サービスコーナー
高山市内	<ul style="list-style-type: none"> ・高山市役所 ・ルビットタウン高山 ★桐生 ・スーパーさとう桐生店 ・スーパーさとう石浦店 ・スーパーさとう三福寺店 ・ファミリーマート江名子店 ・松原(ファミリーマート松原) ・ラクール飛騨高山 ・フレスポ飛騨高山 ・丹生川 ・高山短期大学 ・グローバルタウン ★国府リバーサイド ★ピュア高山店 ・本町サテライト
飛騨市内	<ul style="list-style-type: none"> ・飛騨市役所 ★パロー神岡店 ・ハッピータウン ・コメリ神岡店

★セブン銀行共同ATMとなっております。



事務センター

コンプライアンス体制について

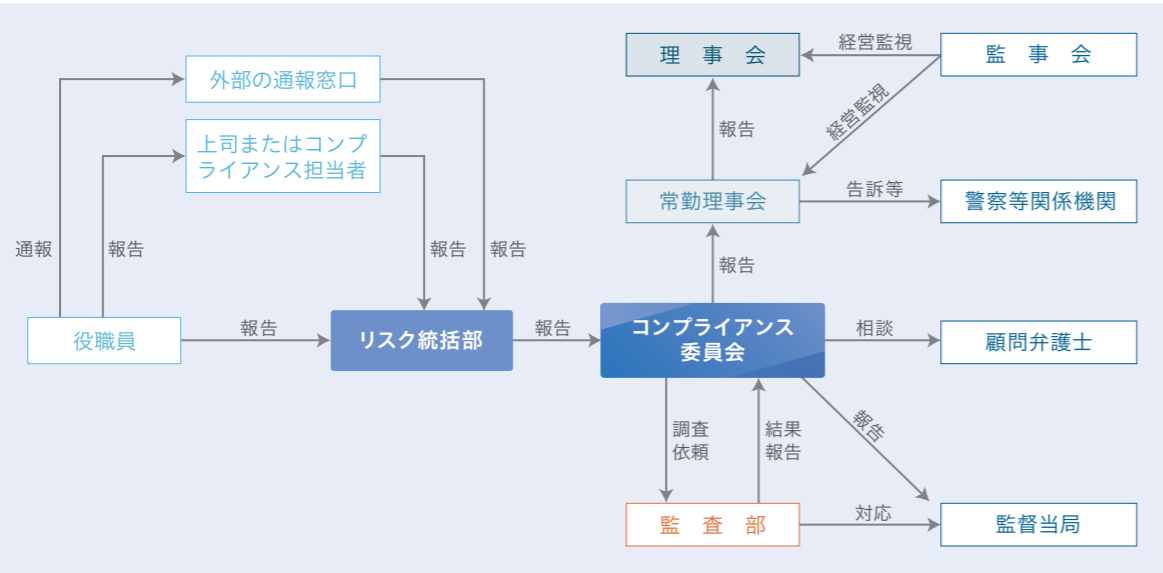
当組合では、金融機関としての社会的使命のほか、コンプライアンス体制の確立を経営の根幹をなす重要課題として位置づけ、その実効性の確保に努めております。

また、中小企業等協同組合法や金融商品取引法をはじめとする関連法令の遵守はもとより、反社会的勢力の排除や、マネー・ロンダリング及びテロ資金供与対策等にも取り組んでいます。

特にマネー・ロンダリング及びテロ資金供与対策については、経営戦略等における重要課題の1つとして位置づけ、「マネー・ロンダリング及びテロ資金供与対策に関するガイドライン」に定める「3つの防衛線(第1線・営業店、第2線・本部、第3線・監査部)」の強化を図るべく、役員員に対して、当該対策等に関する研修や通信講座の受講、資格取得等を奨励しており、またマネロン等対策プロジェクトチームの統括責任者に担当理事を配置するなど、経営陣の主導的な関与の下、組織横断的な枠組みの構築や戦略的な人材確保・教育・資源配分等を行い、当該対応の高度化等を推進しております。

◆コンプライアンスに対する役員員の行動規範と責任

- 1 当組合の社会的使命・公共性を自覚し、業務に努めます。
- 2 各種法令・規則等を遵守します。
- 3 社会・顧客の信頼を得ることに努めます。
- 4 経営の透明性を確保します。
- 5 反社会的勢力とは断固とした姿勢で対応します。



顧客保護等管理方針

1 お客さま保護のための基本方針

当組合は、法令、諸規則、諸規程(以下「法令等」といいます。)を遵守して誠実かつ公正に事業を遂行し、当組合の商品・サービス(以下「商品等」といいます。)を利用し又は利用しようとする方(以下「お客さま」といいます。)の正当な利益の確保及びその利便性の向上を図り、以てお客さまからの信頼を確保するために継続的に取り組みます。

2 お客さまへの説明について

当組合は、法令等を遵守して、お客さまへの説明を要するすべての商品等について、お客さまの取引目的、ご理解、ご経験、ご資産の状況等に応じた適切かつ十分な商品説明と情報提供を行います。

3 お客さまからのご相談・苦情等の対処について

当組合は、お客さまからのご相談、苦情等について、迅速かつ誠実に対応し、お客さまの正当な利益を公正に確保して、以て当組合の事業についてお客さまのご理解が得られるように努めます。

4 お客さまの情報管理について

- (1) 当組合は、お客さまの情報について、これを適法かつ適切な手段で取得し、正当な理由なく、当組合がお客さまにお示した利用目的の範囲を超えた取扱いや外部への提供を行いません。
- (2) 当組合は、お客さまの情報の正確性の維持に努めるとともに、お客さまの情報への不正なアクセスや情報の流出等の防止のため、適切かつ十分な安全保障措置を講じます。

5 当組合の業務を外部委託する場合におけるお客さま情報の取り扱いやお客さまへの対応について

当組合がその業務を第三者に外部委託する場合においても、お客さまの情報及びお客さまへの対応が適切に行われるように外部委託先を管理します。

リスク管理方針

金融の自由化・高度化が進展する中、金融業務におけるリスクは多様化・複雑化しており、こうしたさまざまなリスクを的確に認識し、適切にコントロールすることが重要になってきています。

当組合では、業務遂行から発生するリスクを総合的に把握、コントロールする観点からリスク統括部を設置し、リスクカテゴリーごとのリスク量計測とモニタリング等、リスクの統合的な管理に取り組んでいます。

具体的には、当組合が保有する自己資本と計測したリスク量とを対比し、経営体力に収まるよう管理するとともに、収益確保に向け、リスクの顕在化を想定した管理に取り組んでいます。

統合管理するリスクは、「信用リスク」「市場リスク」「流動性リスク」「オペレーショナル・リスク」とし、リスクカテゴリー別に別途定める資本を配賦し、管理します。

また、その他リスクについては、その顕在化（発生）を最小限にとどめることを目的として適切な管理に努めるとともに、万一の場合に備え「コンティンジェンシープラン（危機管理計画）」を策定しています。

各種リスクと取り組み内容

■信用リスク

信用リスクとは、信用供与先（貸出先、保有有価証券の発行体など）の財務状況の悪化等により、資産（オフ・バランス資産を含む。）の価値が減少ないし消失し、金融機関が損失を被るリスクをいいます。
当組合では、信用リスク管理にあたり、信用格付・自己査定・与信ポートフォリオの状況を踏まえて、与信取引に係る信用リスクを把握し、過度な信用リスクの発生や集中の防止に努めています。
また、過度な信用リスクを排除するため、「信用リスク管理方針」「信用リスク管理規程」に定められた審査方針に従うとともに、信用リスクの分散を図るため特定の業種・特定の個別取引先への過度な与信集中の回避に努めています。

■市場リスク

市場リスクとは、金利、為替、株式等の様々な市場のリスク・ファクターの変動により、保有する資産・負債（オフ・バランス資産を含む。）の価値が変動し金融機関が損失を被るリスク、資産・負債から生み出される収益が変動し金融機関が損失を被るリスクをいいます。
当組合では、有価証券運用について、「有価証券運用基準」を定め、余資運用の基軸として長期的に安定した収益を確保するため、安全性および流動性並びにパーゼルIIIを十分考慮するとともに、金融商品会計基準による保有有価証券時価の変動が組合の財務内容に与える影響を把握・管理の上、常にポートフォリオの改善に努め、所有期間利回りを重視し、バランスのとれた運用に努めています。
また、余資運用については、「余資運用基準」を定め、資産の流動性および健全性が確保される範囲内で収益性を高め、かつ各種リスクおよびパーゼルIIIに留意し適切な管理に努めています。
なお、外部環境の大幅な変化を想定したストレス・テストを実施するとともに、市場リスク計測手法の信頼性や適切性を確保するため、バック・テストを実施しています。

■流動性リスク

流動性リスクとは、運用と調達の間でのミスマッチや予期せぬ資金の流出により、必要な資金確保が困難になる、または通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより金融機関が損失を被るリスクおよび市場の混乱等により市場において取引ができなかったり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより金融機関が損失を被るリスクをいいます。
当組合では、適正な資金ポジションを確保するため、資金繰りの状況・見通しおよび資金繰りに影響を及ぼす諸条件の変化を厳格に把握し、貸出金・預金等の運用資産・調達負債を日常的に管理するとともに、調達手段・調達先の多様化など調達力の強化を図り、流動性確保に向けた適切かつ厳正な管理に努めています。

オペレーショナル・リスク

オペレーショナル・リスクとは、金融機関の業務の過程、役職員の活動もしくはシステムが不適切であること、または外生的な事象により金融機関が損失を被るリスクです。

■事務リスク

事務リスクとは、預金、為替、融資などの事務において、役職員が正確な事務を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより金融機関が損失を被るリスクをいいます。
当組合は、事務規程の整備や臨店監査、店内検査などにより、事務リスク発生の未然防止の措置を講じつつ、損失の最小化を図っております。また、事務ミス防止のための機械化や本部集中化などを積極的に進めています。

■人的リスク

人的リスクとは、役職員の人事運営上の不公平・不公正（報酬・手当・解雇等の問題）・各種ハラスメント等により、金融機関が損失を被るリスクをいいます。

■システムリスク

システムリスクとは、コンピューターシステムの障害または誤作動等、システムの不備等に伴い金融機関が損失を被るリスク、さらにコンピューターが不正に使用されることにより金融機関が被るリスクをいいます。
当組合は、信組共同センター（SKC）を利用していますが、システムの管理基準を定め、情報の保護・セキュリティの確保・システム管理等に努め、災害発生や万一のコンピューターの障害発生に備え「コンティンジェンシープラン」を定めています。
また、近年、更に脅威の高まりを見せるサイバーセキュリティ事案に対し、平時からの警戒態勢と事案発生時に迅速な対応を行えるよう、組合内に常設組織として「CSIRT:シーサート」を設置しております。

■有形資産リスク

有形資産リスクとは、災害その他の事象により、金融機関が保有する有形資産が毀損・損害を被るリスクをいいます。

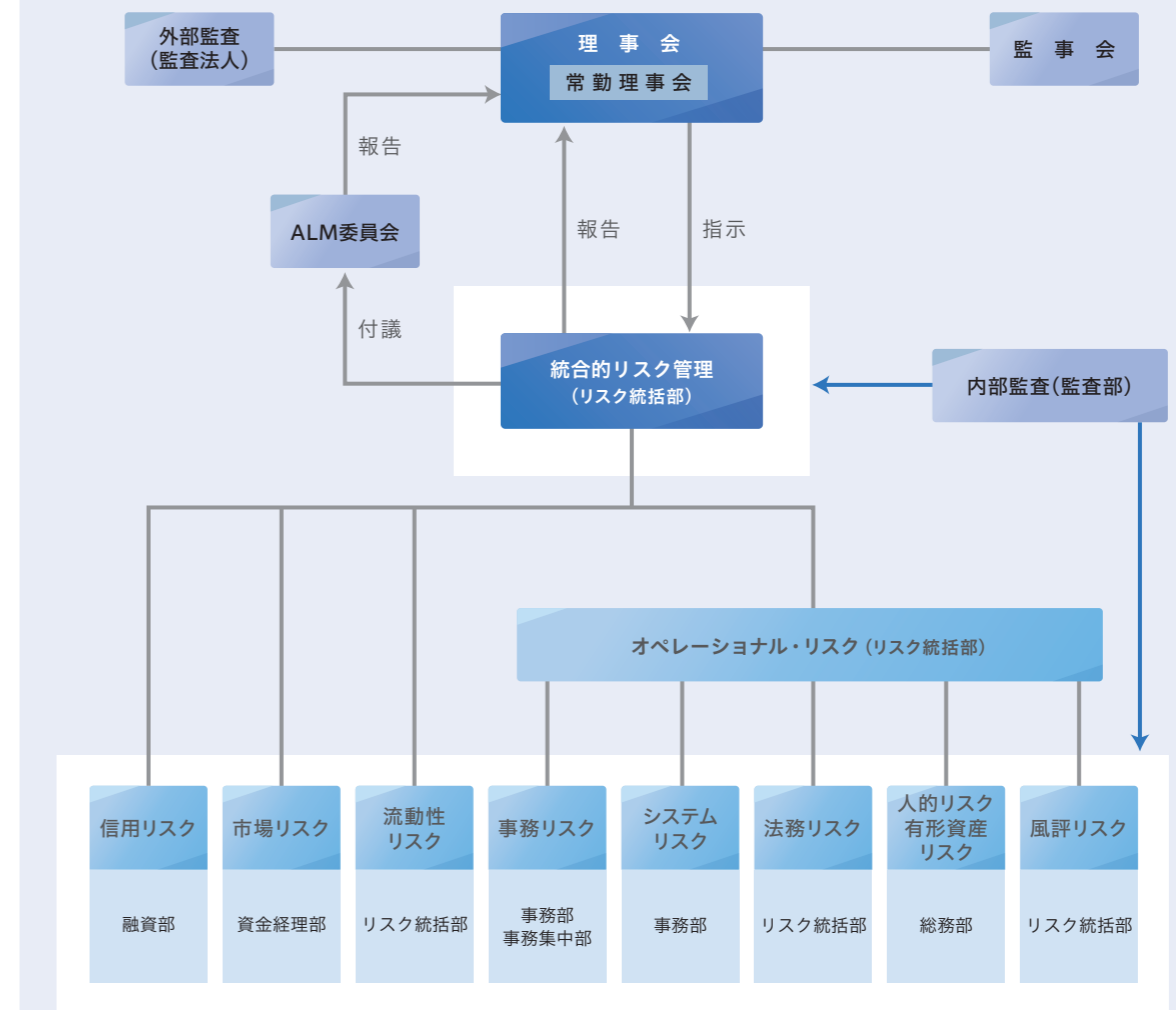
■法務リスク

法務リスクとは、お客さまに対する過失等による義務違反および不適切なビジネス・マーケット慣行により金融機関が損失・損害を被るリスクをいいます。

■風評リスク

風評リスクとは、金融機関が評判の悪化や風説の流布等により、信用が低下することから生じる損失・損害を被るリスクをいいます。
当組合では、風評リスクが他のリスクに連動する重大性を認識し、「お客様相談室」や各営業店にお寄せいただいたお客さまからの苦情や要望などに対しては、速やかに経営へ報告し、お客さまにご理解いただける対応に努めています。

リスク管理体制図



内部統制基本方針

当組合は、左記の通り、当組合の業務の適正を確保するための体制（以下「内部統制」という。）を整備し、その実効性の確保に努めております。

4 職務執行が効率的に行われることを確保するための体制

- 1 職務執行が効率的に行われることを確保するため、必要に応じて理事会を開催し、そこで事業方針・事業戦略及び組織に関する重要事項について審議し又は報告を受けるとともに組織・職制規程を制定する。
- 2 理事会において、中期事業計画及び各年度の事業計画を策定し、その実施状況のモニタリング結果に係る報告を受ける。

5 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- 1 監事が必要に応じて当組合の顧問弁護士、顧問税理士、会計監査人等と連携を図り、また、必要に応じて専門の弁護士、公認会計士から監査業務に関する助言を受ける機会を保障する。
- 2 監査部は監査計画及び監査結果について、監事に定期的に報告し、意見交換を行う。
- 3 監事が職務を補助すべき使用人を置くことを求めることができるものとする。その場合における当該使用人等に関しては以下の各項の定めによる。
 - ① 監事の監査の実効性確保のため、監事が監査部長に監査業務に必要な事項を命じ、監査部長は所属の職員を指名し監事の監査業務を補助させる。
 - ② 監事の監査業務を補助する職員は、当該監査業務に関して監事の指揮命令に従い、各部の担当理事、担当部長等の指揮命令を受けない。
 - ③ 監査部は監事との協議により、監事の要請した事項の監査を実施し、その結果を監事に報告する。
- 4 監事への報告に関する体制は、以下の各項のとおりとする。
 - ① 理事は次に定める事項を認識した場合は、直ちに監事に報告する。ただし、監事が出席した理事会等の会議で報告・決議された事項は、この限りではない。
 - a. 理事会等で決議された事項
 - b. 組合に著しい損害を及ぼすおそれのある事項
 - c. リスク管理及び内部監査に関する重要な事項
 - d. 重大な法令・定款・内部規程に違反する事項
 - e. コンプライアンス相談窓口の体制上の不備に関する事項
 - f. その他当組合の経営状況について重要な事項
 - ② 職員は前項bからfに関する事項を発見した場合、監事に直接報告できる。
- 5 監事は常に理事及び職員に対して、監査に必要な事項の報告を求めることができる。

1 役職員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- 1 法令等の遵守を経営の最重要課題の一つとして位置付け、あらゆる機会を捉えて法令等遵守の重要性について全役職員に周知徹底することにより、当組合の社会的責任を果たすことをその事業活動の前提とすることを確認する。
- 2 役職員による法令等遵守を確実に実現するため、理事会において、当組合の理念、役職員の行動指針及び組織体制を「行動綱領」及び「コンプライアンス管理規程」として定め、これに則った業務運営を実践するための具体的な手引書として「コンプライアンス・マニュアル」を制定するとともに、これらを全役職員に周知徹底する。
- 3 法令等遵守を確保する組織体制としては、法令等遵守に関する基本的事項は理事会で決定し、法令等遵守に関する具体的諸問題への対応はコンプライアンス統括部門であるリスク統括部コンプライアンス課で一元的に所管するとともにコンプライアンス委員会及び各部署にコンプライアンス担当者配置して法令等遵守の実施状況を管理監督させる。
- 4 職員が法令等遵守の観点から疑義のある行為を知った場合、所属部署の上司又はコンプライアンス担当者を介さず、直接コンプライアンス課に報告・相談を行うことができるコンプライアンス相談窓口を設置する。
- 5 内部監査部門は、法令等遵守状況についての監査を実施し、その結果を理事会及び監事に報告する。

2 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する事項

- 1 「理事会規程」、「常勤理事会規程」に従い、理事の職務の執行に係る情報の適正な保存及び管理を行う。
- 2 理事及び監事は、前項に基づき保存及び管理している文書及び電磁的記録を常時閲覧ができる。

3 損失の危険（リスク）の管理に関する規程その他の体制

- 1 適正なリスク管理を実現するため、理事会において、リスク管理の基本方針及び統合的なリスク管理体制等を定めた「統合的リスク管理規程」を制定するとともに、リスクの性質毎にそのリスクの特性に応じた管理規程等を制定する。
- 2 リスク管理の組織体制としては、リスク管理に関する基本的事項は理事会で決定し、当組合全体の統合的なリスク管理はリスク統括部リスク管理課で一元的に所管するとともに、リスクの性質毎の主管部署を定め、リスク管理の実効性確保及び相互牽制機能の強化を図る。
- 3 内部監査部門は、リスク管理状況についての監査を実施し、その結果を理事会及び監事に報告する。

お客さまの情報の管理

当組合を安心してご利用いただくため、当組合では「お客さまの情報の管理」を最も重要な事項の一つとして、「個人情報保護宣言」の公表や、情報の漏えいや紛失等の未然防止のための諸規程の整備・職員教育の継続的な取り組みなどにより、個人情報の適切な管理に努めております。

個人情報保護宣言

当組合では、個人情報保護および個人番号（以下「個人情報等」といいます。）の重要性に鑑み、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）（以下「法」といいます。）、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年5月31日法律第27号）、特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン等の関係法令等（以下「法令等」といいます。）を遵守して以下の考え方にに基づきお客さまの個人情報等を厳格に管理し、適正に取り扱うとともに、その正確性・機密保持に努めます。また、本保護宣言につきましては、その内容を適宜見直し、改善してまいります。当組合は、本保護宣言を当組合のインターネット上のホームページに掲載し、または、各店舗の窓口等に掲示し、もしくは備え付けることにより、公表します。

- 1 **個人情報の利用目的**
当組合は、法令等に基づき、お客さまの個人情報等を、預金業務、融資業務などの業務^{※1}ならびに利用目的の達成に必要な範囲で適正に利用し、それ以外の目的では、法等で認められる場合のほか、利用いたしません。また、個人番号については、法令等で認められている利用目的以外では利用いたしません。なお、個人情報の利用目的を変更した場合は直ちに公表いたします。
- 2 **個人情報の適正な取得について**
当組合では、上記1.で特定した利用目的の達成に必要な範囲で、適法かつ適正な手段により、例えば、以下のような情報源から、お客さまの個人情報等を取扱いたします。なお、法第2条第3項に定める要配慮個人情報を含む「金融分野における個人情報保護に関するガイドライン」に定める微細情報は、法令等で認められている場合以外は、取得いたしません。
(1) 預金口座のご新規申込の際にお客さまにご記入・ご提出いただく書類等により、直接提供いただいた情報
(2) 各地手形交換所等の共同利用者や個人信用情報機関等の第三者から提供された情報
(3) 商品やサービスの提供を通じて、お客さまからお聞きした情報

- 3 **個人データの第三者提供**
当組合は、法令等で認められている場合を除き、お客さまの同意なしにお客さまの個人データを第三者へ提供いたしません。但し、個人番号をその内容に含む特定個人情報については、法令等で認められていない限り、お客さまの同意があっても、これを第三者に提供いたしません。
- 4 **個人データの委託**
当組合は、上記1.の利用目的の範囲内で、例えば、以下のような場合に、個人データおよび個人番号に関する取り扱いを外部に委託することがあります。その場合には、適正な取り扱いを確保するための契約締結、実施状況の点検などを行います。
(1) お客さまにお送りするための書面の印刷または発送に関わる業務を外部に委託する場合
(2) 情報システムの運用・保守に関わる業務を外部に委託する場合

- 5 **個人データの共同利用**
当組合は、上記1.の利用目的の範囲内で個人データを特定の第三者^{※2}と共同利用しております。但し、個人番号をその内容に含む特定個人情報については、共同利用いたしません。
- 6 **個人情報等の安全管理措置に関する方針**
当組合では、取り扱う個人情報等の漏えい・滅失等の防止その他の個人情報等の安全管理のため、組織的安全管理措置、人的安全管理措置、技術的安全管理措置を講じ、適正に管理します。また、役職員には必要な教育と監督を、業務委託先に対しては、個人情報等の安全管理が図られるよう必要かつ適切な監督に努めます。当組合における個人データの安全管理措置に関しては、当組合の内部規程等において定めておりますが、主な内容は以下のとおりです。
(1) 個人データの適正な取り扱いの確保のため、関係法令・ガイドライン等を遵守するとともに、下記8.のご質問・相談・苦情窓口にて、個人データの取り扱いに関するご質問・相談および苦情を受け付けることとされています。

- (2) 取得、利用、保存、提供、削除・廃棄等の段階ごとに、取扱方法、責任者・担当者およびその任務等について策定しています。
- (3) 個人データの取り扱いに関する責任者を設置するとともに、個人データを取り扱う職員および当該職員が取り扱う個人データの範囲を明確化し、法令等や内部規程等に違反している事実またはそのおそれ把握した場合の責任者への報告連絡体制を整備しています。また、個人データの取扱状況について、定期的に自己点検を実施するとともに、他部署による監査を実施しています。
- (4) 個人データの取り扱いに関する留意事項について、職員に定期的な研修を実施しています。また、個人データについての秘密保持に関する事項を就業規則に記載しています。
- (5) 個人データを取り扱う区域において、職員の入室管理および持ち込む機器等の制限を行うとともに、権限を有しない者による個人データの閲覧を防止する措置を実施しています。また、個人データを取り扱う機器、電子媒体および書類等の盗難または紛失等を防止するための措置を講じるとともに、当該機器、電子媒体等から容易に個人データが判明しないよう措置を実施しています。
- (6) アクセス制御を実施して、担当者および取り扱う個人情報データベース等の範囲を限定しています。また、個人データを取り扱う情報システムを外部からの不正アクセスまたは不正ソフトウェアから保護する仕組みを導入しています。

- 7 **お客さまからの開示、訂正、利用停止等のご請求**
(1) 開示のご請求
お客さまから当組合が保有するご自身に関する個人データまたは第三者提供に係る記録の開示のご依頼があった場合には、原則として開示いたします。
(2) 訂正等のご請求
お客さまから当組合が保有するご自身に関する個人データの訂正等（訂正・追加・削除）のご依頼があった場合には、原則として訂正等いたします。
(3) 利用停止等のご請求
お客さまから当組合が保有するご自身に関する個人データの利用停止等（利用停止・消去）のご依頼があった場合（法令等に基づく正当な理由による。）には、原則として利用停止等いたします。
(4) ダイレクトメール等の中止
当組合は、当組合からの商品・サービスのセールスに関するダイレクトメールの送付やお電話等での勧誘のダイレクト・マーケティングで、個人情報を利用することについて、これを中止するようお客さまよりお申し出があった場合は、遅滞なく当該目的での個人情報の利用を中止いたします。なお、(1)、(2)、(3)のご請求に当たっては、個人情報の重要性に鑑み、ご請求者（代理人を含む）の本人確認をさせていただきます。ご請求手続の詳細およびご請求用紙が必要な場合は当組合本支店窓口までお申し出ください。

- 8 **ご質問・相談・苦情窓口**
当組合では、お客さまからのご質問等に適切に取り組んでまいりますので、個人情報の取り扱い等に関するご質問等につきましては、以下の窓口にお申し出ください。
岐阜県高山市花岡町1丁目13番地1
飛騨信用組合理事長 大原 誠

●お客様相談室 フリーダイヤル 0120-36-4501
平日 9:00～17:30
(土日・祝日および金融機関の休日を除く)

※1 「預金業務、融資業務などの業務」につきましては、当組合ホームページをご参照ください。 <https://www.hidashin.co.jp/about/purpose.html>
※2 「特定の第三者」につきましては、当組合ホームページをご参照ください。 <https://www.hidashin.co.jp/about/sharing.html>

カード（通帳・印鑑）紛失・盗難時の緊急連絡先		
曜日	受付時間	ご連絡先
平日	8:30～17:30	お取引店
	0:00～8:30 17:30～24:00	しんくみATMセンター TEL 047-498-0151
土・日・祝日	0:00～24:00	

※各お取引店の電話番号は店舗一覧(P21)をご参照ください。

- ### キャッシュカード犯罪防止対策
- 類推されやすい暗証番号の使用防止
生年月日や電話番号など類推されやすい暗証番号を使用されているお客さまは、暗証番号の変更をお願いします。ATM操作により暗証番号が自由に変更できます。
 - 1日当たりのキャッシュカード引き出し限度額の設定
1日当たりの引き出し限度額は、最高200万円までですが、個人のお客さまにつきましては50万円を基本設定額としております。お客さまのお申出により200万円を上限に1万円単位で変更できます。変更を希望される場合は、窓口へお申し出ください。
 - キャッシュカードの利用店の制限
お客さまが利用される特定の店舗のみに制限することができます。
 - キャッシュカードによる振込限度額の変更
1日当たりの振込限度額は、最高200万円までです。お客さまのお申出により200万円を上限に1万円単位で変更できます。変更を希望される場合は、窓口へお申し出ください。
 - 生体認証ICキャッシュカードの対応
当組合では、生体認証ICキャッシュカード対応ATMを設置しています。
 - 高齢者に対するキャッシュカードによる振込制限
高齢者の預金を詐欺から保護するため、一定条件を満たした70歳以上のお客さまを対象とし、普通預金からATMで振り込みする場合はの上限金額を1,000円までとさせていただきます。変更を希望される場合は、窓口までお申し出ください。

当組合は、以下のとおり、内部管理体制、管理方法等を整備してお客さまからの苦情、ご要望、ご相談等への適切な対応に取り組んでいます。

- 1 お客さまからの苦情等については、本支店またはお客様相談室で承ります。
- 2 お申し出いただいた苦情等は、事情・事実関係を調査するとともに、必要に応じ関係部署との連携を図り、公正・迅速・誠実に対応し、解決に努めます。
- 3 苦情等の受付・対応に当たっては、個人情報保護に関する法律やガイドライン等に沿い、適切に取り扱いたします。
- 4 お客さまからの苦情等のお申し出は、しんくみ相談所をはじめとする他の機関でも受け付けていますので、内容やご要望等に応じて適切な機関をご紹介します、その標準的な手続等の情報を提供します。
- 5 紛争解決を図るため、弁護士会が設置運営する仲裁センター等を利用することが出来ます。その際は、しんくみ相談所の規則等を遵守し解決に取り組めます。
- 6 顧客サポート等に係る情報の集約、苦情等に対する対応の進捗状況および処理指示については、リスク統括部が一元的に管理します。
- 7 反社会的勢力による苦情等を装った圧力に対しては、規程等に基づき、必要に応じ警察等関係機関との連携をとった上、断固たる対応をとります。
- 8 苦情等に対応するため、研修等により関連規程等に基づき業務が運営されるよう、組合内に周知・徹底を図ります。
- 9 苦情等の内容について分析し、調査を行った苦情等の発生原因を把握した上、苦情等の再発防止、未然防止に向けた取り組みを不断に行います。

当組合へのお申し出先

「お取引先店舗」または「ひだしんお客様相談室」をお願いいたします。

ひだしん お客様相談室	住所：岐阜県高山市花岡町1丁目13番地1
	フリーダイヤル：0120-36-4501
	受付時間：9:00～17:30（土日・祝日および金融機関の休日を除く）
	なお苦情等対応手続については、当組合ホームページをご覧ください。 ホームページアドレス https://www.hidashin.co.jp

苦情等のお申し出は当組合のほか、東海地区しんくみ苦情等相談所・しんくみ相談所をはじめとする他の機関でも受け付けています（詳しくは、当組合お客様相談室へご相談ください）。

名称	東海地区しんくみ苦情等相談所（社）東海信用組合協会	しんくみ相談所（一般社団法人全国信用組合中央協会）
住所	〒453-0015 愛知県名古屋市中村区椿町 3-21	〒104-0031 東京都中央区京橋 1-9-5
電話番号	052-451-2110	03-3567-2456
受付時間	月～金（祝日及び12月29日～1月3日を除く） 9:00～12:00 13:00～16:30	月～金（祝日及び信用組合の休業日を除く） 9:00～17:00

相談所は、公平・中立な立場でお申し出を伺い、お申し出のお客さまの理解を得たうえで、当該の信用組合に対し迅速な解決を要請します。

下表に記載の弁護士会が設置運営する仲裁センター等で紛争の解決を図ることも可能ですので、当組合お客様相談室またはしんくみ相談所へお申し出ください。

また、お客さまが直接、仲裁センター等へ申し出ることも可能です。

なお、下記東京・第一東京・第二東京弁護士会の各仲裁センターは、東京以外の地域の方々からの申立について、当事者の希望を聞いたうえで、アクセスに便利な地域で手続を進める方法があります。

- 1 移管調停：東京以外の弁護士会の仲裁センター等に事件を移管する。例えば、岐阜県弁護士会の仲裁センターに事件を移管し、以後、当該弁護士会の仲裁センターで手続を進めることができます。
- 2 現地調停：東京の弁護士会の幹旋人と東京以外の弁護士会の幹旋人が、弁護士会所在地と東京を結ぶテレビ会議システム等により、共同して、解決に当たる。例えば、お客さまは、長野県弁護士会（や福井県弁護士会）の仲裁センターにお越しいただき、当該弁護士会の幹旋人とは面談で、東京の弁護士会の幹旋人とはテレビ会議システム等を通じてお話いただくことにより、手続を進めることができます。

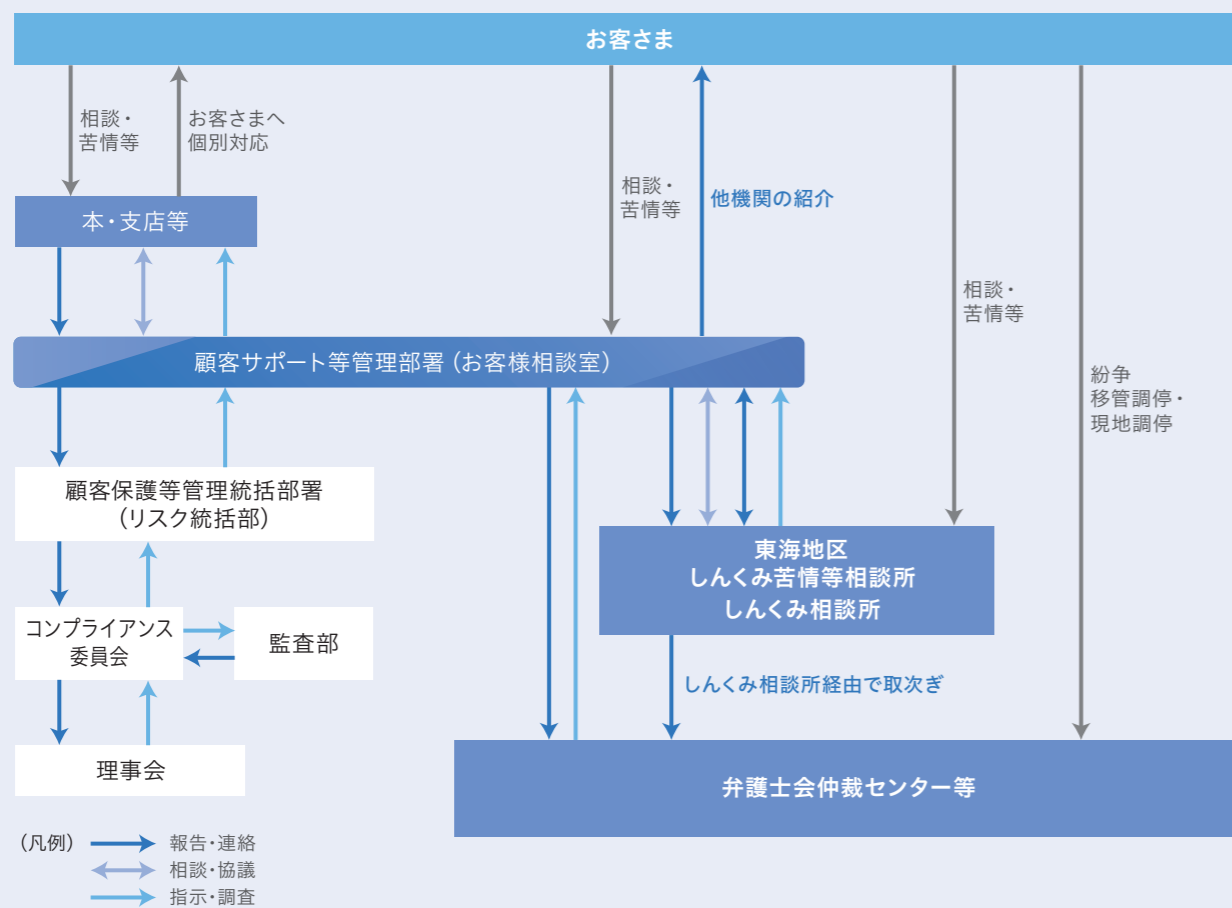
※移管調停、現地調停は全国の弁護士会で実施している訳ではありませんのでご注意ください。具体的な内容は仲裁センター等にご照会ください。

名称	東京弁護士会 紛争解決センター	第一東京弁護士会 仲裁センター	第二東京弁護士会 仲裁センター	愛知県弁護士会 紛争解決センター	愛知県弁護士会 西三河支部 紛争解決センター
住所	〒100-0013 東京都千代田区 霞が関 1-1-3	〒100-0013 東京都千代田区 霞が関 1-1-3	〒100-0013 東京都千代田区 霞が関 1-1-3	〒460-0001 愛知県名古屋市中区 三の丸 1-4-2	〒444-0864 愛知県岡崎市明大寺町 字道城ヶ入34-10
電話番号	03-3581-0031	03-3595-8588	03-3581-2249	052-203-1777	0564-54-9449
受付時間	月～金 （除 祝日、年末年始） 9:30～12:00 13:00～15:00	月～金 （除 祝日、年末年始） 10:00～12:00 13:00～16:00	月～金 （除 祝日、年末年始） 9:30～12:00 13:00～17:00	月～金 （あっせん、仲裁期日） 10:00～16:00	月～金 （あっせん、仲裁期日） 10:00～16:00

保険業務に関する苦情は下記機関でも受け付けております。

名称	（一社）生命保険協会生命保険相談所	（一社）日本損害保険協会そんぽADRセンター
住所	〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-1	〒101-8335 東京都千代田区神田淡路町 2-9
電話番号	03-3286-2648	0570-022808
受付時間	月～金（除 祝日、年末年始） 9:00～17:00	月～金（除 祝日、年末年始） 9:15～17:00

苦情等受付・対応体制（令和4年4月1日現在）



当組合では、お客さまにより一層のご満足を得るよう、お取引に係る苦情等*を承りますので、お気軽にお申し出ください。
 *苦情等とは、当組合との取引に関する照会・相談・要望・苦情・紛争のいずれかに該当するもの及びこれらに準ずるものをいいます。

3 | 総代会の決議事項等

令和4年6月17日開催の第68期通常総代会におきましては、次の報告ならびに決議事項が付議され、決議事項については、それぞれ原案のとおり可決・承認されました。

報告事項	第68期(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)事業報告、貸借対照表ならびに損益計算書報告の件		
決議事項	第1号議案	第68期剰余金処分案承認の件	
	第2号議案	第68期役員賞与支給の件	
	第3号議案	第69期事業計画および収支予算案承認の件	
	第4号議案	定款一部変更の件	
	第5号議案	理事任期満了および監事辞任に伴う選挙の件	
	第6号議案	退任監事に対する退職慰労金贈呈の件	

4 | 総代の選挙区・定数・総代数・総代氏名

(令和4年7月1日現在)

選挙区	総代氏名 (敬称略)			
高山地区 総代定数 81名 総代数 80名	荒井 祐介① 岩本 正樹② 小笠原 順彌⑩ 柿下 孝⑧ 黒川 宣彦⑨ 小邑 敬① 佐藤 祐介① 清水 篤① 鈴木 敏文⑤ 田近 重信⑨ 谷腰 康夫⑩ 直井 憲治⑩ 長瀬 栄二郎③ 野口 忠彦⑩ 林 誠④ 古橋 直彦③ 堀尾 雅紀③ 鞠子 浩之① 村尾 葉子① 山腰 哲也①	池田 三太郎⑥ 井保呂 達行⑥ 小鳥 直彦③ 北村 剛治④ 桑ヶ谷 耕一⑩ 堺 和信③ 島 良明① 清水 幸平③ 瀬木 孫八郎⑨ 田中 良平⑩ 塚畑 伸一⑨ 長尾 肇⑩ 成瀬 正⑨ 野戸 修⑤ 番場 清徳① 洞口 茂③ 前川 圭三⑨ 三枝 隆則① 本林 正樹④ 山下 恭廣⑥	伊藤 正隆② 岩田 勇治④ 折付 徳美⑩ 北村 哲雄④ 劔田 廣喜② 坂之上 健一⑥ 嶋田 稔彦⑥ 下島 恭平② 田川 耕一⑤ 田中 知久⑤ 都竹 睦夫⑤ 中坪 政夫⑨ 西野 徹③ 萩ノ脇 義高⑧ 平野 和夫② 洞口 修一② 前田 一郎⑩ 南 和巳⑦ 柳瀬 武⑥ 横田 守⑩	井ノ下 雄志① 大下 正幸⑤ 加賀江 敏光⑨ 木村 哲也⑤ 小瀬 勇⑩ 坂本 宣正① 島ノ上 静夫⑥ 下畑 了三⑤ 田口 靖剛⑤ 谷口 欣也② 寺地 亮平② 中村 幸博④ 新田 敬義⑩ 兀尾 仁① 古川 文夫⑩ 洞口 忠夫⑩ 前田 克郎① 三輪 義弘⑤ 山越 辰雄⑩ 吉野 毅②
大野地区 総代定数 10名 総代数 10名	永井 善久⑩ 水口 斉⑤ 松葉 悟②	長瀬 雅彦③ 中萩 久夫③ 遠山 はやと②	森前 俊夫⑥ 中西 伸一③	新井 信秀⑨ 稲子 盛雄⑤
南吉城地区 総代定数 27名 総代数 26名	池田 昭二⑥ 柏木 博行② 齋藤 茂秀⑧ 田口 義彦⑩ 田中 元⑤ 吉井 英吉⑧ 船坂 康浩②	上野 芳広⑥ 北平 明⑨ 齋藤 繁① 田近 豊一⑤ 谷口 利彦⑩ 加藤 叶⑩ 清水 昭南⑩	牛丸 理④ 北村 伊佐雄① 坂上 弘幸② 田近 正英③ 谷邊 芳弘⑨ 川端 弘則⑦	小田 澄夫④ 倉家 孝雄④ 杉浦 仁司① 田中 要④ 宮腰 清宏⑥ 大門 久徳①
北吉城地区 総代定数 12名 総代数 11名	大坪 和巳① 高田 豊彦⑧ 山崎 教安④	奥野 拓郎⑧ 田嶋 亨① 岡田 裕之⑥	河上 玲⑧ 橋本 克幸⑨ 上北 一久①	澤田 忠久⑩ 山口 正一⑨

(注1) 氏名の後に就任回数を記載しております。(注2) 就任回数が10回以上となる場合は⑩で表示しています。

5 | 総代の属性別構成比

職業別	個人	2.34%	個人事業主	3.91%	法人役員	93.75%
年代別	50代以下	17.97%	60代	34.37%	70代	35.16%
業種別	建設業	25.78%	卸売・小売業	26.56%	製造業	17.19%
	農業	2.34%	電気・ガス・熱供給・水道業	3.91%	運輸業	2.35%
	個人	2.34%			不動産業	5.47%
					各種サービス業	14.06%

1 | 総代会制度

信用組合は、組合員の相互扶助の精神を基本理念に、金融活動を通じて経済的地位の向上を図ることを目的とした協同組合組織の金融機関です。

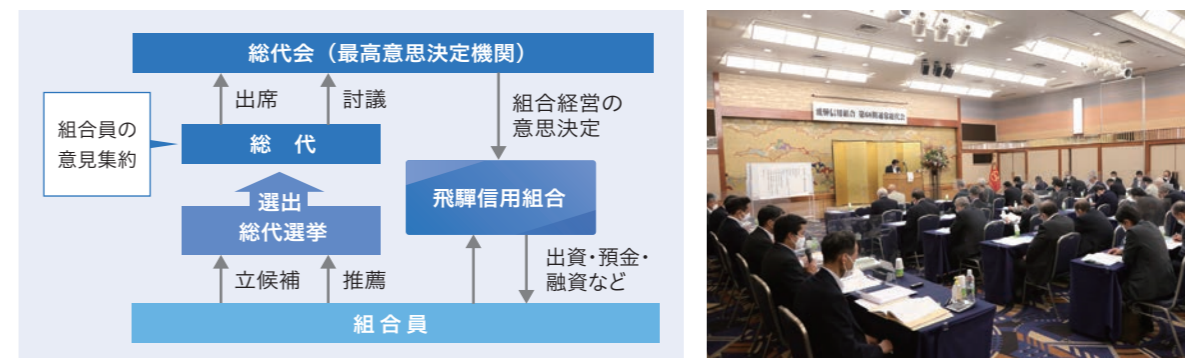
また、信用組合には、組合員の総意により組合の意思を決定する機関である「総会」が設けられており、組合員は出資口数に関係なく一人一票の議決権及び選挙権を持ち、総会を通じて信用組合の経営等に参加することができます。

しかし、当組合は、組合員24,703名(令和4年3月末)と大変多く、総会の開催が事実上不可能なため、中小企業等協同組合法及び定款の定めるところにより「総代会」を設置しています。

総代会は、総会と同様に組合員一人ひとりの意思が信用組合の経営に反映されるよう、組合員の中から適正な手続きにより選挙された総代により運営される当組合の最高意思決定機関です。総代会では、決算や事業活動等の報告が行われるとともに、剰余金処分、事業計画の承認、定款変更、理事・監事の選任など、当組合の重要事項に関する審議・決議が行われます。

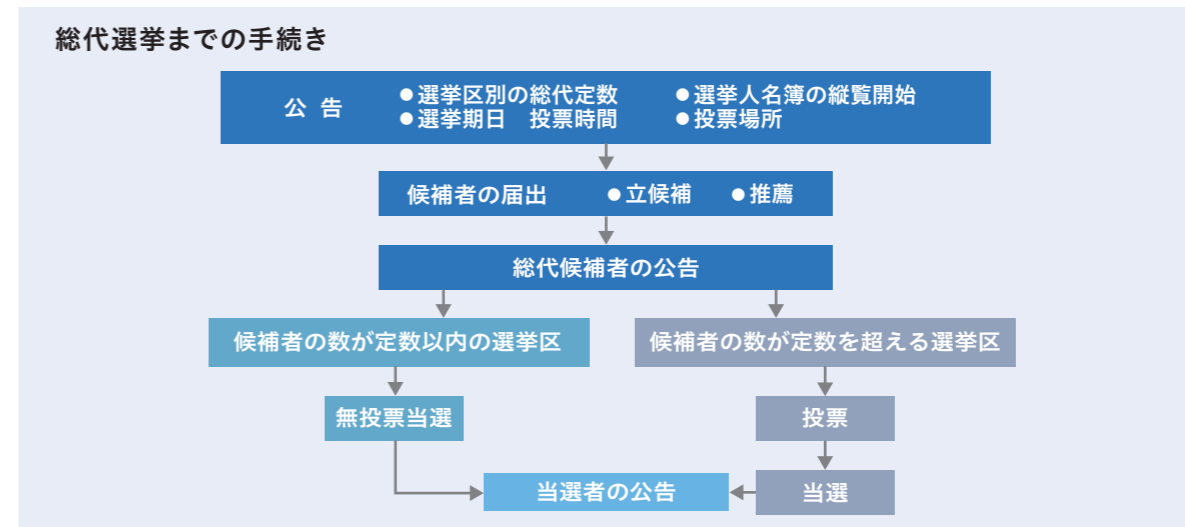
総代は、組合員の代表として、総代会を通じて組合員の信用組合に対する意見や要望を信用組合経営に反映させる重要な役割を担っています。

当組合では、総代会に限定することなく、日常の営業活動などを通じて、総代や組合員とのコミュニケーションを大切に、さまざまな経営改善に取り組んでいます。



2 | 総代の任期・定数および選出方法

- 総代の任期・定数**
 - 総代の任期は3年です。
 - 総代の定数は100名以上140名以内で、営業地区の組合員数に応じて各地区ごとに定められております。
 - なお、令和4年7月1日現在の総代数は127名です。
- 総代の選出方法**
 - 総代は組合員であることが前提条件であり、各地区毎に立候補した方もしくは地区内の組合員20名以上から推薦された方の中から、その地区に属する組合員により公平に選挙を行い選出されます。
 - なお、総代候補者の数が当該地区における総代定数を超えない場合は、その候補者を当選者として投票は行っておりません。



1 | 対象役員

当組合では、理事全員及び監事全員(非常勤を含む)の報酬体系を開示しております。
対象役員に対する報酬等は、職務執行の対価として支払う「基本報酬」及び「賞与」、在任期間中の職務執行及び特別功勞の対価として退任時に支払う「退職慰労金」で構成されております。

(1) 報酬体系の概要

【基本報酬及び賞与】

非常勤を含む全役員の基本報酬及び賞与につきましては、総代会において、理事全員及び監事全員それぞれの支払総額の最高限度額を決定しております。

そのうえで、各理事の基本報酬額につきましては役位や在任年数等を、各理事の賞与額については前年度の業績等をそれぞれ勘案し、当組合の理事会において決定しております。

また、各監事の基本報酬額及び賞与額につきましては、監事の協議により決定しております。

【退職慰労金】

退職慰労金につきましては、在任期間中に每期引当金を計上し、退任時に総代会で承認を得た後、支払っております。

(2) 役員に対する報酬

(単位:百万円)

区分	当期中の報酬支払額	総会等で定められた報酬限度額
理事	71	88
監事	13	18
合計	85	106

注1. 左記は、協同組合による金融事業に関する法律施行規則第15条別紙様式第4号「附属明細書」における役員に対する報酬です。
注2. 支払人数は、理事14名、監事は4名です。
注3. 左記には使用人兼務理事の報酬は含まれておりません。
注4. 使用人兼務理事6名の使用人分の報酬(賞与を含む)は、44百万円です。
注5. 左記以外に支払った役員退職慰労金は理事39百万円、監事2百万円です。

(3) その他

「協同組合による金融事業に関する法律施行規則第69条第1項第6号等の規定に基づき、報酬等に関する事項であって、信用協同組合等の業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与えるものとして金融庁長官が別に定めるものを定める件」(平成24年3月29日付金融庁告示第23号)第3条第1項第3号及び第5号に該当する事項はありません。

報酬体系について

2 | 対象職員等

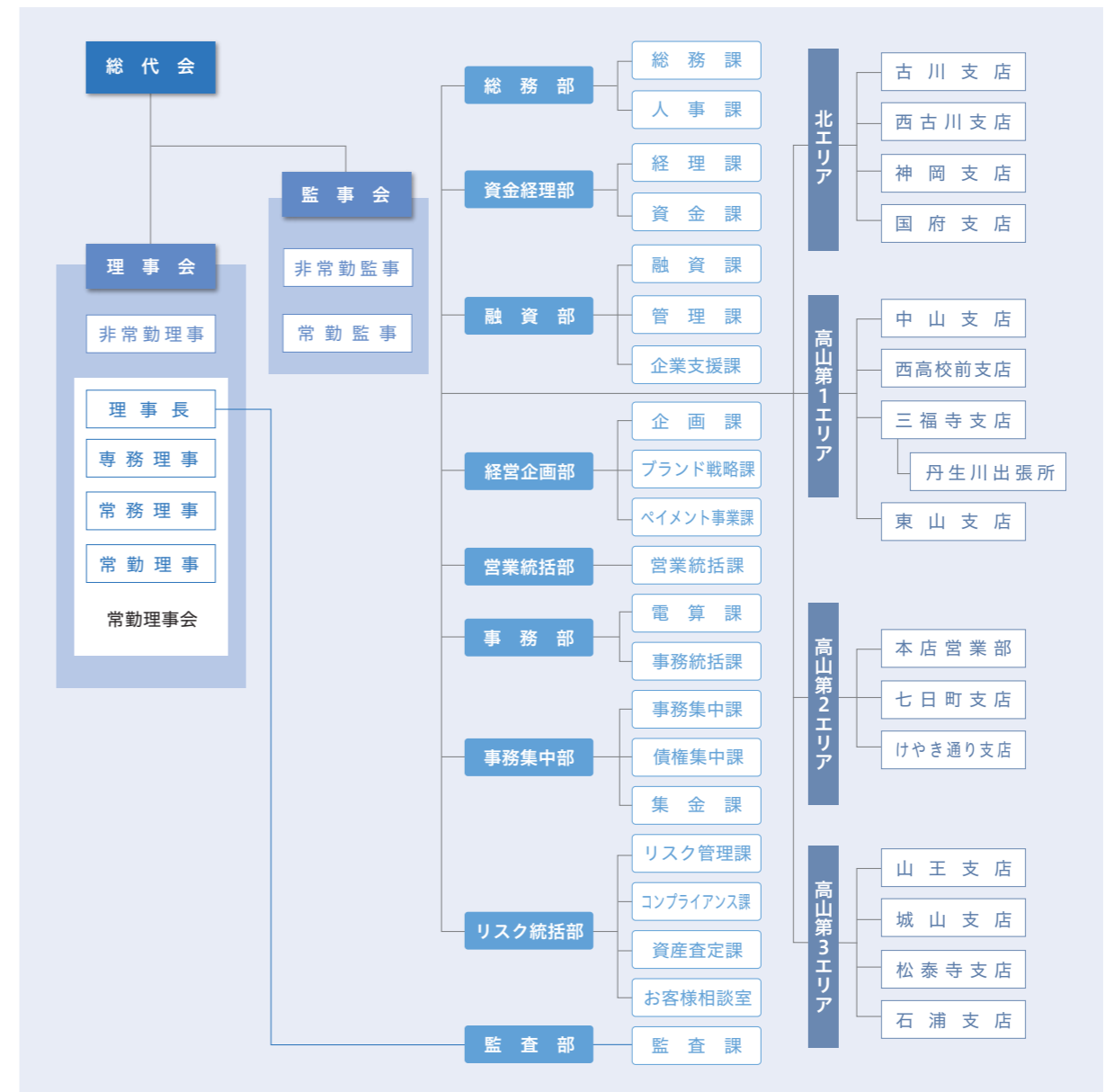
当組合における報酬体系の開示対象となる「対象職員等」は、当組合の非常勤役員、当組合の職員であって、対象役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受ける者のうち、当組合の業務及び財産の状況に重要な影響を与える者をいいます。

なお、令和3年度において、対象職員等に該当する者はいませんでした。

注1. 対象職員等には、期中に退任・退職した者も含めております。

注2. 「同等額」は、令和3年度に対象役員に支払った報酬等の平均額としております。

注3. 当組合の職員の給与、賞与及び退職金は当組合における「給与規程」及び「退職給与規程」に基づき支払っております。なお、当組合は、非営利・相互扶助の協同組合組織の金融機関であり、業績連動型の報酬体系を取入れた自社の利益を上げることや株価を上げること動機づけされた報酬となっていないため、職員が過度なリスクテイクを引き起こす報酬体系はありません。



組織図

(令和4年6月17日現在)

■ 役員一覧 (令和4年6月17日現在)

理事長	大原 誠	常勤理事	河瀬 善博	非常勤理事	米澤 久二	常勤監事	中井 昌宏
専務理事	山腰 和重	常勤理事	和田 靖史	非常勤理事	名上 泰幸	非常勤監事	白川 勝規
常務理事	小邑 昇	常勤理事	大坪 岳洋	非常勤理事	蓑谷 雅彦	非常勤監事	櫻枝 淳
常務理事	清水 和也	非常勤理事	堀 泰則	非常勤理事	出井 浩樹	(員外)	

当組合は、職員出身者以外の理事4名の経営参画により、ガバナンスの向上や組合員の意見の多面的な反映に努めています。

■ 会計監査人の氏名又は名称 EY新日本有限責任監査法人 (令和4年7月1日現在)

■ 業務のご案内

融資業務のご案内

種 類	内容と特色	ご融資金額	ご融資期間
住宅ローン (固定金利選択型) (変動金利型)	住宅新築のほか、増改築・中古住宅購入・建売住宅購入・住宅用土地購入および住宅ローンの借換等にご利用いただけます。	最高1億円	最長35年
生活応援 リフォームローン	住宅のリフォームにご利用いただけます。	最高1,000万円	最長15年
生活応援 マイカーローン	自家用車購入、車検や修理費用のほか免許取得等にご利用いただけます。	最高1,000万円	最長10年
ロードサービス付 マイカーローン	自家用車購入、車検や修理費用のほか免許取得等にご利用いただけます。ロードサービスが付帯されます。	最高1,000万円	最長10年
生活応援 奨学ローン	入学金や授業料のお支払い等、お子さまの教育資金にご利用いただけます。	最高1,000万円	最長15年
教育ローン	幼稚園、小、中、高校、高専、専門学校、予備校、短大、大学、大学院の入学金・授業料等の教育資金にご利用いただけます。	最高500万円	最長16年10ヵ月
チャンス (極度型教育ローン)	入学金や授業料のお支払等、お子さまの教育資金のサポートをいたします。在学期間中必要な時に必要な分だけお借入いただけます。	最高500万円	就学者の在学期間 +9ヵ月以内
生活応援 多目的ローン	生活に関わる様々な目的にご利用いただけます。	最高1,000万円	最長10年
フリーローン「チョイス」 スピードローン	目的を限定せずにご利用いただけます。WEB完結型の場合、お申込みから融資実行までご来店不要です。	最高500万円	最長10年
おまとめローン500	目的を限定せずにご利用いただけます。		
さるぼぼ コーポレートローン	当組合と職域優遇等に関する協定を締結した職域提携企業に勤める方が対象です。目的を限定せずにご利用いただけます。	最高500万円	最長10年
Saru-bobo	特定不妊治療に係る諸費用にご利用いただけます。 (借入日から3年間のお利息は、高山市が全額補助します。)	1回あたり50万円 (200万円が限度)	最長7年
リバースモーゲージ ローン	豊かな老後生活のため、資産を有効活用できます。終身まで、ご契約の範囲内で反復してご利用いただけます。	最高3,000万円 (不動産担保)	終身まで
シルバーローン	シニアライフの充実をお手伝いいたします。	最高100万円	最長5年
カードローン	普通預金(総合口座)にセットし、ご契約の範囲内で反復してご利用いただけます。	最高100万円 4コースから選択	
レディスカードローン	女性専用のカードローンで、普通預金(総合口座)にセットし、ご契約の範囲内で反復してご利用いただけます。	最高50万円 2コースから選択	契約期間3年 (自動更新)
カードローンワイド	カードでお引き出しができ、ご契約の範囲内で反復してご利用いただけます。毎月一定額の返済が必要となります。	最高200万円 4コースから選択	
アラカルト	カードでお引き出しができ、ご契約の範囲内で反復してご利用いただけます。毎月ご利用残高に応じて一定額の返済が必要となります。	最高500万円 9コースから選択	契約期間1年 (自動更新)
教育カードローン 「YELL」	専用カードでお引き出しができ、契約の範囲内で反復してご利用いただけます。入学金や授業料のお支払等、お子さまの教育資金にご利用ください。	最高500万円 9コースから選択	就学者の在学期間+2ヵ月以内
割引手形	商業手形の迅速な資金化にご利用いただけます。	—	—
手形貸付	仕入資金・買掛金決済等、短期運転資金にご利用いただけます。	—	—
証書貸付	長期の設備資金または運転資金にご利用いただけます。	—	—
当座貸越	ご契約の範囲内で反復してご利用いただけます。	—	—
ビジネスカードローン	岐阜県信用保証協会の保証付きカードローンです。ご契約の範囲内で反復してご利用いただけます。	最高2,000万円	2年
中小企業会計 活用ローン	「中小企業の会計に関する基本要領」を適用し、適切な財務情報の開示に取り組む中小企業の皆さまを応援します。当座貸越	最高1億円	1年(原則 自動更新)
主な代理貸付業務	全国信用協同組合連合会・(株)商工組合中央金庫・(株)日本政策金融公庫・(独)福祉医療機構・(独)中小企業基盤整備機構・(独)住宅金融支援機構・年金積立金管理運用(独)		

■ 業務のご案内

為替業務・その他業務のご案内

種 類	内容と特色
内国為替業務	送金為替、振込および代金取立などを取り扱っております。
外国為替業務	全国信用協同組合連合会の取次業務として、外国送金その他外国為替に関する各種業務を取り扱っております。
証券業務	投資信託、個人向け国債、新窓販国債の窓口販売をお取り扱いしております。最寄の店舗へご相談ください。
保険業務	医療保険・自動車保険・火災保険等、各種保険商品をお取り扱いしております。
信託契約代理業	しんくみ相続信託のお取り扱いをしております。
夜間金庫	当組合の営業時間終了後でも、お客さまの売上金等をお預かりし、翌営業日にご指定の口座に入金します。
貸金庫	預金証書・株券・権利証・貴金属などを金庫で安全に保管し、盗難・火災など不慮の事故からお守りいたします。
デビットカードサービス	当組合のキャッシュカードで、ジェイデビット加盟店でのお買物代金、お客さまの預金口座から決済します。
インターネットバンキング	パソコン・スマートフォンを利用して、預金の残高照会や入出金照会・振込・振替等の資金移動ができるサービスです。
外貨両替	日本円を米ドルに、米ドルを日本円に両替します。本店営業部の窓口でお取り扱いしております。
株式・出資金の払込	株式会社等の設立、増資の場合の株式払込金・出資払込金のお取り扱いをいたします。
ひだしんでんさいサービス	法人インターネットバンキングを通じて「でんさい」をご利用できるサービスです。
さるぼぼコインサービス	専用アプリにて二次元コードを用いた電子決済をご利用できるサービスです。
飛騨信用組合ペイメントサービス	クレジットカード、電子マネー等の決済手段(端末)を提供するサービスです。

預金業務のご案内

種 類	内容と特色	お預入期間	お預入金額
総合口座	1冊の通帳に普通預金・定期預金がセットされ、「貯める・殖やす・支払う・借りる・受取る」の5つの機能を備えています。給料や年金のお受取り、公共料金の自動支払のほか、キャッシュカードもご利用いただけます。		
普通預金	自由に出し入れができ、給料や年金のお受取り、公共料金の自動支払をはじめ、各種口座振替にご利用いただけます。		
無通帳普通預金 「Web pass」	無通帳かつインターネットバンキングをセットした「普通預金」と同じ機能を備えています。専用カードを発行します。	出し入れ自由	1円以上
決済用普通預金	「総合口座」「普通預金」と同じ機能を持ち、お利息はつきませんが、預金保険制度により全額保護されています。		
当座預金	会社や、商店の資金決済に、手形・小切手をご利用いただくことにより、現金を扱う危険や手間が省ける機能的な預金です。ご希望により、手形・小切手に署名判印字を致します。(署名判印字は手数料が必要です。)		
通知預金	まとまった資金を短期間運用するのに適しています。払出しは払出日の2日前までにご連絡ください。	7日間以上	1,000円以上
納税準備預金	納税に備えるため、資金を計画的にご準備いただく預金で、お利息は非課税となっています。	入金は自由 出金は納税時	1円以上
教育資金一括贈与専用口座 「孫への想い」	預金者(贈与を受けられた方)の教育資金の贈与にかかる非課税措置を目的としてご利用いただけます。	預金者が30歳に なられるまで	受贈者 お1人さまにつき 1,500万円まで
期日指定定期預金	1年複利の個人専用の預金で、1年経過後は1ヵ月以上前のご連絡で、ご預金の全額または一部のお引き出しが出来ます。	据置期間1年 最長預入期間3年	1円以上 300万円未満
スーパー定期	1千万円未満の余裕資金の運用に適した預金です。個人の方は複利型の取り扱いも可能です。		100円以上
大口定期預金	1千万円以上のまとまった資金の運用に適した預金です。市場金利の動向を基準に金利が決定され、満期日は、ご都合に合わせて自由に設定できます。	1ヵ月以上5年以内	1,000万円以上
変動金利定期預金	市場金利の動向にあわせ、6ヵ月毎に金利が見直しされる預金です。個人の方は複利型の取り扱いも可能です。	2年以上3年以内	1円以上
定額預金型複利定期	半年複利で6ヵ月据置後は自由に引き出しができ、一部引き出しも可能な個人専用の預金です。長くお預けするほど金利が有利となっています。	据置期間6ヵ月 最長預入期間5年	10,000円以上
セカンドライフ 定期預金	退職金専用の定期預金としてご利用いただけます。(優遇金利)	3ヵ月	100万円以上 退職金受給額を上限
相続定期預金 メモリアル定期「感謝」	相続により取得された資金のお預入れ定期預金としてご利用いただけます。(優遇金利)	1年・2年・3年・5年	相続により取得された金額の範囲内
一般財形預金	勤務先の財形制度を利用して、給与・賞与からの天引預金です。貯蓄目的は自由です。	3年以上	
財形住宅預金	住宅の取得や増改築のために積み立てる預金で、財形年金預金と合計で550万円までお利息が非課税です。	5年以上	1,000円以上
財形年金預金	老後資金を積み立てる預金で、財形住宅預金と合計で550万円までお利息が非課税です。		
スーパー積金	目標額に向けて毎月一定額を積み立てていただけますので、計画的に資金作りができます。掛金はご指定の口座から自動振替もできます。	6ヵ月以上5年以内	1,000円以上
さるぼぼ倶楽部 定期預金	組合員様専用の優遇金利でお預入れいただけます。ご契約期間によって金利が変わります。	1年以上7年以内	10,000円以上

有価証券投資業務 預金の支払準備及び資金運用のため国債、地方債、社債、株式、その他証券に投資しております。

そのほか、各種商品・サービスを取扱っております。詳しくは、ひだしの最寄りの店舗へご相談ください。

■ 主な手数料のご案内

1. 本表の手数料は令和4年7月1日現在です。 2. 各手数料等は税込価格の表示(総額表示)としております。

1 振込手数料

振込手数料	他金融機関宛		当組合宛		
		電信	同一店内	本店	
窓口	組合員の方	3万円以上 3万円未満	770円 550円	無料	無料
	組合員以外の方	3万円以上 3万円未満	880円 660円	無料	440円 220円
	文書扱い※1	3万円以上 3万円未満	660円 440円	—	—
ATM		3万円以上 3万円未満	660円 440円	無料	無料
定額自動送金	組合員の方	3万円以上 3万円未満	770円 550円	無料	無料
	組合員以外の方	3万円以上 3万円未満	770円 550円	無料	220円 110円
インターネットバンキング ファームバンキング		3万円以上 3万円未満	330円 220円	無料	無料

※1 文書扱いは、付帯物件が付されている場合に限りです。
 (注)組合員の方でも出資配当金のご入金口座取引店以外で受付またはサービスを利用されますと、組合員の判断ができない場合がございますので、窓口へお申し出ください。

2 その他為替手数料

代金取立 手数料	自店・本店・高山手形交換所加盟金融機関	無料
	上記以外の 金融機関宛	至急扱い(個別取立) 880円 普通扱い(集中又は個別取立) 660円
その他手数料	不渡手形返却料 取立手形組戻料	取立手形店頭呈示料 送金・振込の組戻料 660円

3 当座関連手数料

小切手帳	1冊につき(50枚綴り)	660円
約束手形帳	1冊につき(25枚綴り)	440円
署名判登録		5,500円
署名判登録変更		2,200円
マル専口座開設	割賦販売通知書1通につき	3,300円
マル専手形用紙	1枚につき	550円
自己宛小切手発行	1枚につき	550円

4 各種サービス手数料(月間口座維持管理基本手数料)

法人インターネットバンキング ファームバンキング	総合振込、振込・振替、照会	2,200円
	振込・振替、照会	1,100円
個人インターネットバンキング	振込・振替、照会	220円
	照会	無料

5 融資関連手数料

不動産担保 事務手数料	新規担保設定 1件につき	設定額2,000万円以下	33,000円
		設定額2,000万円超 住宅ローン	55,000円 33,000円
	追加担保設定	1回につき(住宅ローン除く)	33,000円
	極度額変更	1回につき	11,000円
	根抵当権の抹消	1回につき	11,000円
	担保物件の一部抹消 (土地収用の場合は無料)	1回につき	11,000円
動産担保 事務手数料	新規担保設定		11,000円
	担保抹消		55,000円 11,000円
証書貸付 繰上償還 手数料※1	全部繰上償還	100万円未満	11,000円
		100万円以上 300万円未満	22,000円
		300万円以上 1,000万円未満	33,000円
		1,000万円以上 2,000万円未満	44,000円
		2,000万円以上	55,000円
融資条件変更手数料	一部繰上償還		全部繰上償還と同じ
固定選択型住宅ローン更新時、固定金利再選択手数料			11,000円
保証書発行手数料(支払承諾保証書)			5,500円 1,100円

※1 証書貸付繰上償還手数料は、融資実行日から4ヵ月以内の繰上償還または、当初借入金額が40万円以下は無料とします。
 新規与信による繰上返済部分の償還手数料は無料とします。
 (注)代理貸付・保証付貸付については各保証会社等の定めによります。
 (注)同時に複数の手数料項目が発生する場合は、最も高い手数料のみとなります。

6 ATM利用手数料

①引出の場合

利用時間	当組合カード	無料引出提携カード※1	他金融機関カード
平日	7:00 ~ 8:00	110円	220円 ※2
	8:00 ~ 18:00	無料	110円
	18:00 ~ 21:00	110円	220円
土曜日 日曜日 祝日	7:00 ~ 8:00		220円 ※2
	8:00 ~ 21:00	110円	220円

※1 十六銀行及び益田信用組合のキャッシュカードをいいます。ご利用時間はそれぞれ異なります。
 ※2 一部の時間延長している信用組合に限り利用できます。
 (注)キャッシング提携カードのサービス時間・ご利用手数料はカード会社により異なります。

②預入れの場合

利用時間	当組合カード	相互入金提携カード※1
平日	7:00 ~ 8:00	無料 ※2
	8:00 ~ 18:00	220円
	18:00 ~ 21:00	110円
土曜日 日曜日 祝日	7:00 ~ 21:00	無料

※1 第2地方銀行、信用金庫、他信用組合、労働金庫のキャッシュカードをいいます。
 (一部ご利用いただけない金融機関があります。)
 ※2 一部の時間延長している信用組合に限り利用できます。

③振込の場合

利用時間	当組合カード	無料振込提携カード※1	他金融機関カード	現金扱い
平日	7:00 ~ 8:00	110円	110円	220円
	8:00 ~ 18:00	無料	無料	110円
	18:00 ~ 21:00	110円	110円	220円
土曜日 日曜日 祝日	7:00 ~ 21:00	110円	110円	220円

※1 十六銀行及び益田信用組合のキャッシュカードをいいます。ご利用時間はそれぞれ異なります。
 (注)振込の場合は、上記ATM利用手数料の他に振込手数料が必要となります。

7 貸金庫・夜間金庫利用手数料

種類	契約料	年間使用料	
貸金庫使用料	小(高さ10cm未満)	無料	6,600円
	小(高さ6cm未満)	無料	9,900円
	中(高さ10cm未満)	無料	15,840円
自動貸金庫使用料	大(高さ14cm未満)	無料	21,780円
		1,100円	13,200円
夜間金庫使用料			

8 証明書発行手数料

各種証明書	窓口発行		
各種証明書	残高証明書	1通につき	330円 ※1
	監査法人の指定用紙による証明書	1通につき	3,300円
	任意の用紙による証明書	1通につき	1,100円
	融資証明書(事業・ローン用)	1通につき	13,200円
	融資証明書(農地転用許可用)	1通につき	6,600円
	住宅取得控除証明書	1通につき	220円 ※1

※1 郵送の場合は、上記の他に郵送1通につき435円が必要となります。
 (注)住宅取得控除証明書の自動発行手数料は、窓口発行と同様とします。
 (注)住宅金融支援機構等の代理貸付に係る手数料は、各取扱機関の定めによります。

9 再発行手数料

再発行手数料	通帳再発行	1件につき	1,100円
	証書再発行		
	CDカード(ICカード)再発行		
	ローンカード再発行		
	貸金庫カード再発行		
	両替機専用カード		

(注)各種カード再発行手数料は、旧カードのご提示がある場合は無料とします。

10 各種手数料

株式払込 取扱手数料	一般払込の場合	払込金額×0.385%
	一括払込の場合	他に受付票1通につき 5円 払込金額×0.275%
配当金支払 取扱手数料	全店支払方式	配当金支払額×0.088%
	特定店支払方式	他に領収書1通につき 5円 配当金支払額×0.33%
個人情報開示手数料	1通につき	330円 ※1
預金取引履歴照会票	1枚あたり	330円(2枚目以降1枚毎に11円) ※1
融資取引履歴照会票	1枚あたり	330円(2枚目以降1枚毎に11円) ※1

※1 郵送の場合は、上記の他に郵送1通につき435円が必要となります。

11 両替手数料

①窓口

持込枚数またはお持帰り枚数(紙幣、硬貨の合計)のうち、いずれが多い枚数	円貨両替(現金整理)手数料
1枚 ~ 49枚	550円 ※1
50枚 ~ 500枚	550円
501枚 ~ 1,000枚	660円
1,001枚 ~ 2,000枚	1,100円
2,001枚 ~	1,000枚毎に 550円

※1 当組合に口座のある方は、1日1回49枚までに限り無料。
 同日中の2回目以降の取引については取引枚数に応じた手数料となります。
 (注)次の取引も円貨両替手数料の対象になります。
 ・新札両替(記念硬貨は除く)
 ・事業性の現金指定払い出し(給与のための金庫指定払い出しを除く)
 ・事業性の硬貨入金

②両替機(当組合キャッシュカードまたは両替機専用カードをお持ちのお客さまのみ)

持帰り枚数	キャッシュカード	両替機専用カード
1枚 ~ 49枚	無料 ※1	月額1,320円
50枚 ~ 機種最大放出枚数	—	月額1,320円※2

※1 当組合キャッシュカードをお持ちの場合は1日1回49枚までに限り無料。
 同日中の2回目以降はお取扱いできません。

※2 両替機の専用カードのご利用には、事前のお申込みが必要です。
 (注)1回の両替枚数は、機種最大放出枚数(1,000枚)までとします。

12 でんさいネットサービス手数料

でんさいネット手数料	発生記録請求	1件につき	330円
	譲渡記録請求	1件につき	220円
	分割(譲渡)記録請求	1件につき	220円

13 さるぼぼコイン手数料

加盟店コイン払戻手数料(さるぼぼ倶楽部ファミリー店)	払戻金額×1.65%
加盟店コイン払戻手数料(さるぼぼ倶楽部ファミリー店以外)	払戻金額×1.98%
加盟店コイン送金手数料	送金額×0.55%
利用者のさるぼぼコイン払戻手数料 ※1	払戻金額×11%+550円

※1 利用者アカウントが「さるぼぼPay」の払戻は、やむを得ない事情によりさるぼぼPayを継続的に利用することが著しく困難になったと当組合が認めた場合に限りです。
 (注)小数点以下の端数計算により精算金額が異なる場合があります。

財務諸表

▶ 貸借対照表 (単位:千円)

科目	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
【資産の部】		
現金	1,759,799	1,663,207
預け金	57,470,175	60,412,645
有価証券	154,783,333	157,749,042
国債	15,207,420	16,901,871
地方債	28,017,620	29,011,246
社債	27,953,506	30,030,387
株式	3,073,113	3,346,039
その他の証券	80,531,672	78,459,497
貸出金	120,680,986	118,682,468
割引手形	109,725	81,431
手形貸付	3,006,257	2,605,716
証書貸付	108,410,995	106,799,878
当座貸越	9,154,008	9,195,441
その他資産	2,112,462	2,219,021
未決済為替貸	26,438	11,662
全信組連出資金	1,378,700	1,378,700
前払費用	16	—
未収収益	549,318	532,537
金融派生商品	—	85,131
その他の資産	157,989	210,990
有形固定資産	4,781,995	4,708,426
建物	1,844,191	1,770,771
土地	2,688,884	2,688,884
リース資産	13,051	9,229
建設仮勘定	—	13,020
その他の有形固定資産	235,868	226,520
無形固定資産	58,488	52,842
ソフトウェア	39,918	41,251
その他の無形固定資産	18,570	11,591
繰延税金資産	—	—
債務保証見返	199,494	254,503
貸倒引当金	△ 2,864,357	△ 2,902,012
(うち個別貸倒引当金)	(△ 1,762,621)	(△ 1,827,849)
資産の部合計	338,982,378	342,840,144

(単位:千円)

科目	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
【負債の部】		
預金積金	280,069,975	291,809,523
当座預金	3,307,579	4,129,254
普通預金	75,320,999	74,514,169
通知預金	1,894,333	580,127
定期預金	191,353,414	204,589,075
定期積金	7,353,924	7,177,900
その他の預金	839,724	818,996
借入金	27,300,000	20,300,000
借入金	27,300,000	20,300,000
その他負債	701,632	535,225
未決済為替借	24,303	29,465
未払費用	226,213	238,625
給付補填備金	8,246	5,325
未払法人税等	137,338	10,311
前受収益	23,089	21,824
払戻未済金	4,993	17,850
職員預り金	91,378	95,995
金融派生商品	98,246	—
リース債務	13,051	9,229
資産除去債務	19,522	19,775
その他の負債	55,248	86,821
賞与引当金	49,426	45,359
役員賞与引当金	15,000	35,000
退職給付引当金	9,589	7,185
役員退職慰労引当金	150,050	127,672
睡眠預金払戻損失引当金	8,551	7,790
偶発損失引当金	14,821	14,505
繰延税金負債	989,027	794,639
債務保証	199,494	254,503
負債の部合計	309,507,567	313,931,404
【純資産の部】		
出資金	300,828	285,254
普通出資金	300,828	285,254
利益剰余金	24,866,609	25,816,907
利益準備金	318,810	318,810
その他利益剰余金	24,547,799	25,498,097
特別積立金	24,038,000	24,516,000
(経営基盤強化積立金)	(2,300,000)	(2,300,000)
当期末処分剰余金	509,799	982,097
組合員勘定合計	25,167,438	26,102,162
その他有価証券評価差額金	4,307,373	2,806,577
評価・換算差額等合計	4,307,373	2,806,577
純資産の部合計	29,474,811	28,908,739
負債及び純資産の部合計	338,982,378	342,840,144

▶ 損益計算書 (単位:千円)

科目	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
経常収益	4,501,421	4,651,197
資金運用収益	3,960,448	4,147,011
貸出金利息	1,714,763	1,681,047
預け金利息	86,471	84,670
有価証券利息配当金	2,127,990	2,330,635
その他の受入利息	31,222	50,657
役務取引等収益	268,001	243,231
受入為替手数料	83,537	71,034
その他の役務収益	184,463	172,196
その他業務収益	190,048	138,325
外国為替売却益	9,065	—
国債等債券売却益	151,551	103,578
国債等債券償還益	38	14,243
その他の業務収益	29,393	20,503
その他経常収益	82,924	122,628
貸倒引当金戻入益	—	—
償却債権取立益	—	—
株式等売却益	59,539	45,864
その他の経常収益	23,384	76,764
経常費用	3,796,636	3,291,852
資金調達費用	232,443	209,251
預金利息	227,393	205,721
給付補填備金繰入額	3,982	2,699
借入金利息	363	129
その他の支払利息	705	700
役務取引等費用	335,860	329,157
支払為替手数料	32,557	24,247
その他の役務費用	303,303	304,909
その他業務費用	374,694	183,113
外国為替売却損	—	2,608
国債等債券売却損	140,389	102,584
国債等債券償還損	48,838	22,660
国債等債券償却	69,891	—
金融派生商品費用	115,413	55,153
その他の業務費用	161	107
経費	2,495,253	2,401,736
人件費	1,339,963	1,287,915
物件費	1,101,872	1,004,638
税金	53,417	109,183
その他経常費用	358,384	168,592
貸倒引当金繰入額	287,894	123,694
貸出金償却	—	—
株式等売却損	11,799	—
株式等償却	—	11,659
その他資産償却	—	399
その他の経常費用	58,691	32,837
経常利益	704,784	1,359,345
特別利益	—	672
固定資産処分益	—	672
その他の特別利益	—	—
特別損失	200	539
固定資産処分損	200	539
減損損失	—	—
その他の特別損失	—	—
税引前当期純利益	704,584	1,359,479
法人税・住民税及び事業税	237,134	29,995
法人税等調整額	△ 23,076	367,199
法人税等合計	214,057	397,194
当期純利益	490,526	962,284
繰越金(当期末首高)	19,272	19,813
当期末処分剰余金	509,799	982,097

▶ 剰余金処分計算書 (単位:円)

科目	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
当期末処分剰余金	509,799,536	982,097,717
計	509,799,536	982,097,717
剰余金処分額	489,986,032	962,361,931
出資に対する配当金	11,986,032	11,361,931
特別積立金	478,000,000	951,000,000
次期繰越金(当期末残高)	19,813,504	19,735,786

法定監査の状況

当信用組合は、協同組合による金融事業に関する法律第5条の8第3項に規定する「特定信用組合」に該当しておりますので、「貸借対照表」「損益計算書」「剰余金処分計算書」等につきましては、会計監査人である「EY 新日本有限責任監査法人」の監査を受けております。

財務諸表の適正性及び内部監査の有効性

私は、当組合の令和3年4月1日から令和4年3月31日までの第68期の事業年度における貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書（以下、「財務諸表」という。）の適正性、及び財務諸表作成に係る内部監査の有効性を確認しております。

令和4年6月17日

飛驒信用組合
理事長 大原 誠

損益計算書に対する注記

- 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。なお、以下の注記については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
- 子会社等との取引による収益総額 4百万円
子会社等との取引による費用総額 0百万円
- 出資1口当たりの当期純利益 1,593円50銭

貸借対照表に対する注記

- 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。
なお、以下の注記については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
- 有価証券の評価は、子会社・子法人等株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については原則として時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、ただし、市場価格のない株式等については移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
- デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
- 有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却は定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	10年～50年
その他	3年～20年
- 無形固定資産の減価償却は、定額法を採用しております。なお、自組合利用のソフトウェアについては、組合内における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。
- 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産の減価償却は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。
- 外貨建資産・負債は、主として決算日の為替相場による円換算額を付しております。また、外貨建その他有価証券のうち債券に係る換算差額については、外国通貨による時価の変動を評価差額として処理し、それ以外を外国為替売買損益として処理しております。
- 貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。
日本公認会計士協会 銀行等監査特別委員会報告第4号「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」(令和2年10月8日)に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認められる額を計上しております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、融資部(営業関連部署)の協力的下にリスク統括部(資産査定部署)が資産査定を実施しております。
- 賞与引当金は、職員への賞与の支払いに備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。
- 役員賞与引当金は、役員への賞与の支払いに備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。
- 当組合は、複数事業主(信用組合等)により設立された企業年金制度(総合設立型企業年金基金)に加入しており、当組合の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、当該企業年金制度への拠出額を退職給付費用として処理しております。
なお、当該企業年金制度全体の直近の積立状況及び制度全体の拠出等に占める当組合の割合並びにこれらに関する補足説明は次のとおりであります。
(1)制度全体の積立状況に関する事項(令和2年3月31日現在)

年金資産の額	238,577百万円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	229,590百万円
差引額	8,987百万円
- 制度全体に占める当組合の掛金拠出割合
目:令和2年4月1日 至:令和3年3月31日 1.099%
- 補足説明
上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高15,766百万円である。
本制度における過去勤務債務の償却方法は期間12年の元利均等償却であり、当組合は当期の計算書類上、特別掛金14百万円を費用処理している。
なお、特別掛金の額はあらかじめ定められた掛金率を掛金拠出時の標準給与の額に乘じることで算定されるため、上記(2)の割合は当組合の実際の負担割合とは一致しない。
- 役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当事業年度末までに発生していると認められる額を計上しております。
- 睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。
- 偶発損失引当金は、信用保証協会の責任共有制度に基づく負担金の支出に備えるため、将来の負担金支出見込額を計上しております。
- 会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。
貸倒引当金 2,902百万円
貸倒引当金の算出方法は、重要な会計方針として8.に記載しております。
主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」であります。「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務

- 者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。
なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、貸倒引当金が増加する可能性があります。現時点では一部の業種等への影響は一時的に深刻となるものの、政府や自治体の経済対策や金融機関等への支援等により、貸出金に多額の損失が発生する事態には至らないという仮定をおいておりますが、収束が遅延し、影響が長期化した場合には将来において追加的な損失が発生する可能性があります。
- 企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」(令和2年3月31日)(以下、「収益認識会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、消費税等の会計処理を税込方式から税抜方式へ変更しております。この変更による計算書類への影響は軽微であります。
なお、収益認識会計基準第89項に定める経過的な取扱いに従い、当事業年度の期首より前までに税込方式に従って消費税等が算入された固定資産等の取得原価から消費税等相当額を控除してありません。
- 「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 令和元年7月4日。以下、「時価算定基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」(令和元年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用しております。これによる会計方針の変更等の影響はありません。
- 表示方法の変更
協同組合による金融事業に関する法律施行規則の一部改正(令和2年1月24日内閣府令第3号)が令和4年3月31日から施行されたことに伴い、協同組合による金融事業に関する法律の「リスク管理債権」の区分等を、金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく開示債権の区分等に合わせて表示しております。
- 金融商品の状況に関する事項
(1)金融商品に対する取組方針
当組合は、預金業務、融資業務及び市場運用業務などの金融業務を行っております。
このため、金利変動による不利な影響が生じないように、資産及び負債の総合的管理(ALM)をしております。
(2)金融商品の内容及びそのリスク
当組合が保有する金融資産は、主として事業地区内のお客さまに対する貸出金です。
また、有価証券は、主に債券、投資信託及び株式であり、純投資目的及び事業推進目的で保有しております。
これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。
外貨建有価証券については、為替の変動リスクに晒されており、有価証券の取得時に、通貨スワップ取引を行うことにより、当該リスクを回避しています。
一方、金融負債は主としてお客さまからの預金であり、流動性リスクに晒されております。
(3)金融商品に係るリスク管理体制
①信用リスクの管理
当組合は、与信管理規程及び信用リスクに関する管理諸規程に従い、貸出金について、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、保証や担保の設定、問題債権への対応など信用管理に関する体制を整備し、運営しております。
これらの与信管理は、各営業店のほか融資部及びリスク統括部により行われ、また、定期的にALM委員会、常勤理事会及び理事会にて審議・報告を行っております。
有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクに関しては、資金経理部において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しております。
②市場リスクの管理
(i)リスク管理
当組合は、市場リスク管理規程及び市場リスクに関する管理諸規程に従い、リスクの計量的測定を始め、金利リスク・価格変動リスク・為替リスクにかかるモニタリングを行い、リスク計測手法の高度化と市場環境の変化を捉えた適切なリスクコントロールにより、資産・負債の総合的な管理を行っております。
これらの管理は、資金経理部及びリスク統括部により行われ、また、定期的にALM委員会、常勤理事会及び理事会にて審議・報告を行っております。
(ii)市場リスクに係る定量的情報
当組合では、「有価証券」のうち、債券の市場リスク量をVaRにより月次で計測し、取得したリスク量がリスク限度額の範囲内となるよう管理しております。
当組合のVaRは、分散共分散法(保有期間240営業日、信頼区間99%、観測期間5年)により算出しており、令和4年3月31日現在で市場リスク量は全て5,017百万円です。
ただし、VaRは過去の相場変動をベースに統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合があります。
③資金調達に係る流動性リスクの管理
当組合は、流動性リスク管理方針及び流動性リスクに関する管理諸規程に従い、的確な資金ポジションを確保するため、資金繰りの状況、見通し及び資金繰りに影響を及ぼす諸条件の変化を厳格に把握し、貸出金・預金等の運用資産・調達負債を日常的に管理するとともに、調達手段・調達先の多様化など調達力の強化を図り、流動性確保に向けた適切かつ厳正な管理を行っております。

これらの管理は、資金経理部及びリスク統括部により行われ、また、定期的にALM委員会、常勤理事会及び理事会にて、審議・報告を行っております。
(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明
金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
なお、金融商品のうち預け金、貸出金、預金積金及び借入金については、簡便な計算により算出した時価に代わる金額を開示しております。

20. 金融商品の時価等に関する事項
令和4年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります(時価等の算定方法については(注1)参照)。なお、市場価格のない株式等及び組合出資金は、次表には含めておりません(P8参照)。
(単位:百万円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 預け金(※1)	60,412	60,523	111
(2) 有価証券			
その他有価証券	156,795	156,795	—
(3) 貸出金(※1)	118,682		
貸倒引当金(※2)	△ 2,902		
	115,780	120,095	4,314
金融資産計	332,988	337,413	4,425
(1) 預金積金(※1)	291,809	291,927	117
(2) 借入金(※1)	20,300	20,300	—
金融負債計	312,109	312,227	117
デリバティブ取引(※3)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	85	85	—
ヘッジ会計が適用されているもの	—	—	—
デリバティブ取引計	85	85	—

(※1) 預け金、貸出金、預金積金及び借入金の「時価」には、「簡便な計算により算出した時価に代わる金額」を記載しております。
(※2) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。
(※3) その他有価証券・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。
デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

(注1)金融商品の時価等の算定方法
金融資産
(1)預け金
満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、市場金利で割り引くことで現在価値を算定し、当該現在価値を時価とみなしております。
(2)有価証券
株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価額によっております。
なお、保有目的区分ごとの有価証券に関する注記事項については、21. から24. に記載しております。
(3)貸出金
貸出金は、以下の①～②の合計額から、貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除する方法により算定し、その算出結果を簡便な方法により算出した時価に代わる金額として記載しております。
①6か月以上延滞債権等、将来キャッシュ・フローの見積りが困難な債権については、その貸借対照表の貸出金勘定に計上している額(貸倒引当金控除前の額)。
②①以外は、貸出金の種類ごとに将来キャッシュ・フローを作成し、元利金の合計額を市場金利で割り引いた価額を時価とみなしております。

金融負債
(1)預金積金
要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。定期性預金の時価は、一定の金額帯および期間帯ごとに将来キャッシュ・フローを作成し、元利金の合計額を一種類の市場金利で割り引いた価額を時価とみなしております。
(2)借入金
借入金については、帳簿価額を時価としております。
デリバティブ取引
デリバティブ取引は、通貨関連取引(通貨先物、通貨オプション、通貨スワップ等)であり、取引所の価格、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算出した価額によっております。

- 有価証券の時価、評価差額等に関する事項は次のとおりであります。
(1)売買目的有価証券に区分した有価証券はありません。
(2)満期保有目的の債券に区分した有価証券はありません。
(3)子会社・子法人等株式及び関連法人等株式で時価のあるものはありません。
(4)その他有価証券で時価のあるものについては、P8に記載しております。
- 当事業年度中に売却した満期保有目的の債券はありません。
- 当事業年度中に売却したその他有価証券については、P8に記載しております。
- その他有価証券のうち満期があるものの期間毎の償還予定額については、P8に記載しております。
- 協同組合による金融事業に関する法律及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。
なお、債権は、貸借対照表の「有価証券」中の社債(その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)によるものに限る。)、貸出

金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに債務保証見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借又は賃貸借契約によるものに限る。)であります。

(単位:百万円)

破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	1,331
危険債権額	2,302
三月以上延滞債権額	—
貸出条件緩和債権額	317
合計額	3,951

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。
三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。
なお、債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

- 手形割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は 81 百万円であります。
- 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客から融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。
これらの契約に係る融資未実行残高は、 37,826 百万円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが37,826 百万円あります。
なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当組合の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全、その他相当の事由があるときは、当組合が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条件が付けられております。
また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている当組合内手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
- 繰延税金資産の減価償却累計額 3,695 百万円
- 理事及び監事との間の取引による理事及び監事に対する金銭債権総額 261 百万円
- 理事及び監事との間の取引による理事及び監事に対する金銭債務総額 184 百万円
- 子会社等の株式又は出資金の総額 93 百万円
- 子会社等に対する金銭債務総額 18 百万円
- 繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生原因別の内訳は、それぞれ以下のとおりであります。

(単位:百万円)

繰延税金資産	
貸倒引当金損金算入限度額超過額	659
有価証券償却超過額	78
損金算入事業税	1
減価償却超過額	22
役員退職慰労引当金損金算入限度額超過額	34
賞与引当金損金算入限度額超過額	12
貯蔵品損金不算入額	12
その他	54
繰延税金資産小計	876
評価性引当額	△ 260
繰延税金資産合計	616
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	1,050
外貨建債務為替差益	337
為替スワップ評価差益	23
繰延税金負債合計	1,411
繰延税金負債の純額	794

- 担保に提供している資産は、次のとおりであります。
担保提供している資産 預け金 27,500 百万円
有価証券 28 百万円
担保資産に対応する債務 借入金 20,300 百万円
上記のほか、公金取扱い、為替取引及び日本銀行蔵入復代理店取引のために預け金 7,044 百万円を担保提供しております。
- 出資1口当たりの純資産額は、50,671円83銭です。

▶ 主要項目の5年間の指標 / 損益

(単位:百万円)

項目	第64期 平成30年3月期	第65期 平成31年3月期	第66期 令和2年3月期	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
経常収益	4,933	4,563	4,570	4,501	4,651
経常費用	3,840	3,786	3,984	3,796	3,291
経常利益	1,092	777	585	704	1,359
当期純利益	742	565	418	490	962

▶ 主要項目の5年間の指標 / 主要勘定

(単位:百万円)

項目	第64期 平成30年3月期	第65期 平成31年3月期	第66期 令和2年3月期	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
預金積金残高	250,976	257,045	258,871	280,069	291,809
貸出金残高	110,838	115,074	117,226	120,680	118,682
有価証券残高	140,746	145,827	145,298	154,783	157,749
総資産額	319,216	339,671	330,851	338,982	342,840
純資産額	26,735	27,791	26,058	29,474	28,908
単体自己資本比率	17.04 %	15.80 %	15.28 %	15.82 %	17.16 %

(注)「単体自己資本比率」は、平成18年金融庁告示 第22号により算出しております。

▶ 主要項目の5年間の指標 / 出資金

(単位:百万円)

項目	第64期 平成30年3月期	第65期 平成31年3月期	第66期 令和2年3月期	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
出資金	307	304	303	300	285
出資総口数	615,169 口	608,136 口	607,224 口	601,657 口	570,509 口
出資配当率	4.0 %	4.0 %	4.0 %	4.0 %	4.0 %
出資配当金	12	12	12	11	11

▶ 職員数

項目	第64期 平成30年3月期	第65期 平成31年3月期	第66期 令和2年3月期	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
職員数	164 人	168 人	169 人	170 人	159 人

▶ 業務粗利益及び業務純益等

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
資金運用収支 (A) = (B) - (C)	3,728	3,937
資金運用収益 (B)	3,960	4,147
資金調達費用 (C)	232	209
役務取引等収支 (D) = (E) - (F)	△ 67	△ 85
役務取引等収益 (E)	268	243
役務取引等費用 (F)	335	329
その他業務収支 (G) = (H) - (I)	△ 184	△ 44
その他業務収益 (H)	190	138
その他業務費用 (I)	374	183
業務粗利益 (K) = (A) + (D) + (G)	3,475	3,807
業務粗利益率	1.05 %	1.14 %
業務純益	948	1,487
実質業務純益	1,015	1,460
コア業務純益	1,123	1,467
コア業務純益(投資信託解約損益を除く。)	1,123	1,467

(注) 1. 業務粗利益率 = 業務粗利益 / 資金運用勘定平均残高 × 100
 2. 業務純益 = 業務収益 - (業務費用 - 金銭の信託運用見合費用)
 3. 実質業務純益 = 業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額
 4. コア業務純益 = 実質業務純益 - 国債等債券損益

▶ 資金運用勘定並びに資金調達勘定の平均残高等

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期			第68期 令和4年3月期		
	平均残高	利息	利回り(%)	平均残高	利息	利回り(%)
資金運用勘定	330,135	3,960	1.19	333,933	4,147	1.24
うち貸出金	119,204	1,714	1.43	119,693	1,681	1.40
うち預け金	62,910	86	0.13	61,877	84	0.13
うち有価証券	146,640	2,127	1.45	150,982	2,330	1.54
資金調達勘定	309,690	232	0.07	312,683	209	0.06
うち預金積金	273,046	231	0.08	289,035	208	0.07
うち借入金	36,538	0	0.00	23,547	0	0.00

▶ 受取利息・支払利息の増減

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
受取利息の増減	113	186
支払利息の増減	△ 67	△ 23

▶ 総資金利鞘

(単位:%)

項目	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
資金運用利回り	1.19	1.24
資金調達原価率	0.86	0.81
総資金利鞘	0.33	0.42

▶ 総資産利益率

(単位:%)

項目	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
総資産経常利益率	0.20	0.40
総資産当期純利益率	0.14	0.28

(注) 総資産経常利益率 = (経常利益 ÷ 総資産(債務保証見返除く)平均残高) × 100
 総資産当期純利益率 = (当期純利益 ÷ 総資産(債務保証見返除く)平均残高) × 100

▶ 預金・積金に関する指標 (平均残高)

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期		第68期 令和4年3月期	
	平均残高	構成比(%)	平均残高	構成比(%)
流動性預金	74,149	27.2	80,470	27.8
うち有利息預金	62,205	22.7	70,461	24.3
定期性預金	198,896	72.8	208,565	72.2
うち定期預金	191,381	70.1	201,309	69.7
うち定期積金	7,515	2.7	7,255	2.5
譲渡性預金その他の預金	—	—	—	—
合計	273,046	100.0	289,035	100.0

▶ 定期預金に関する指標 (定期預金残高の内訳)

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期		第68期 令和4年3月期	
	残高	構成比(%)	残高	構成比(%)
固定金利	191,347	99.9	204,582	99.9
変動金利	5	0.1	6	0.1
定期預金合計	191,353	100.0	204,589	100.0

▶ 貸出金に関する指標 (平均残高)

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期		第68期 令和4年3月期	
	残高	構成比(%)	残高	構成比(%)
割引手形	157	0.1	105	0.1
手形貸付	3,002	2.5	2,920	2.4
証書貸付	106,382	89.3	107,793	90.1
当座貸越	9,662	8.1	8,873	7.4
合計	119,204	100.0	119,693	100.0

▶ 担保の種類別の貸出金残高及び債務保証見返額

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期			第68期 令和4年3月期		
	残高	構成比(%)	債務保証見返額	残高	構成比(%)	債務保証見返額
当組合預金積金	1,908	1.6	6	1,882	1.6	5
有価証券	—	—	—	—	—	—
動産	19	0.0	—	18	0.0	—
不動産	64,567	53.5	3	62,920	53.0	0
その他	36	0.0	—	58	0.0	—
信用保証協会・信用保険	13,561	11.2	1	14,993	12.6	0
保証	37,623	31.2	188	35,620	30.0	247
信用	2,964	2.5	—	3,187	2.7	—
合計	120,680	100.0	199	118,682	100.0	254

▶ 使途別の貸出金残高

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期		第68期 令和4年3月期	
	残高	構成比(%)	残高	構成比(%)
設備資金	69,048	57.2	68,424	57.7
運転資金	51,632	42.8	50,258	42.3
合計	120,680	100.0	118,682	100.0

▶ 貸出金業種別内訳

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期		第68期 令和4年3月期	
	残高	構成比(%)	残高	構成比(%)
製造業	6,624	5.5	5,945	5.0
農業、林業	1,215	1.0	1,292	1.1
漁業	40	0.0	39	0.0
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—
建設業	9,249	7.7	9,159	7.7
電気、ガス、熱供給、水道業	1,836	1.5	1,484	1.3
情報通信業	410	0.3	499	0.4
運輸業、郵便業	2,157	1.8	2,283	1.9
卸売業、小売業	10,140	8.4	10,412	8.8
金融業、保険業	1,000	0.8	600	0.5
不動産業	10,647	8.8	10,479	8.8
物品賃貸業	182	0.2	168	0.1
学術研究、専門・技術サービス業	295	0.3	276	0.2
宿泊業	1,855	1.5	1,839	1.6
飲食業	1,595	1.3	1,761	1.5
生活関連サービス業、娯楽業	1,313	1.1	1,496	1.3
教育、学習支援業	48	0.1	42	0.0
医療、福祉	560	0.5	535	0.5
その他のサービス	6,258	5.2	6,216	5.2
その他の産業	1,732	1.4	1,649	1.4
小計	57,166	47.4	56,183	47.3
国・地方公共団体等	9,716	8.0	8,384	7.1
個人(住宅・消費・納税資金等)	53,798	44.6	54,115	45.6
合計	120,680	100.0	118,682	100.0

(注)業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

▶ 預貸率・預証率

(単位:%)

項目	第67期 令和3年3月期		第68期 令和4年3月期	
	期末	期中平均	期末	期中平均
預貸率	43.08	43.65	40.67	41.41
預証率	55.26	53.70	54.05	52.23

▶ 有価証券の種類別平均残高

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
国債	13,967	15,728
地方債	27,776	27,927
短期社債	—	—
社債	25,698	28,694
株式	2,331	2,455
その他の証券	76,866	76,177
外国証券	60,790	59,983
(うち円貨債)	(51,236)	(50,180)
その他	16,075	16,193
合計	146,640	150,982

(注)当組合は商品有価証券を保有していません。

有価証券の時価、評価差額等に関する事項

▶ その他有価証券で時価のあるもの

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期			第68期 令和4年3月期			
	貸借対照表計上額	取得原価	差額	貸借対照表計上額	取得原価	差額	
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	2,356	1,567	789	2,577	1,608	969
	債券	56,139	55,083	1,055	47,992	47,295	697
	国債	13,321	13,037	284	11,008	10,868	140
	地方債	21,959	21,438	521	17,993	17,629	363
	短期社債	—	—	—	—	—	—
	社債	20,858	20,608	250	18,990	18,797	193
	その他	63,548	58,079	5,468	57,656	52,259	5,397
小計	122,045	114,731	7,313	108,227	101,163	7,063	
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	606	704	△ 98	669	804	△ 134
	債券	15,038	15,182	△ 143	27,950	28,331	△ 380
	国債	1,885	1,900	△ 15	5,893	6,000	△ 107
	地方債	6,058	6,100	△ 41	11,017	11,190	△ 172
	短期社債	—	—	—	—	—	—
	社債	7,095	7,182	△ 86	11,039	11,140	△ 100
	その他	16,096	17,031	△ 934	19,947	21,397	△ 1,450
小計	31,742	32,918	△ 1,176	48,567	50,533	△ 1,966	
合計	153,787	147,649	6,137	156,795	151,697	5,097	

(注)1. 上記の「その他」は外国証券及び投資信託等です。

2. 市場価格のない株式等及び組合出資金は本表には含まれていません。

▶ 当期中に売却したその他有価証券

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期			第68期 令和4年3月期		
	売却価額	売却益	売却損	売却価額	売却益	売却損
その他有価証券	4,311	211	201	2,300	149	102

▶ 市場価格のない株式等及び組合出資金

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期		第68期 令和4年3月期	
	貸借対照表計上額	取得原価	貸借対照表計上額	取得原価
子会社・子法人等株式	10	—	10	—
非上場株式	99	—	88	—
全信組連等出資金	1,380	—	1,380	—
組合出資金	886	—	855	—
合計	2,376	—	2,334	—

(注)1. 子会社・子法人等株式、非上場株式及び全信組連等出資金については、企業会計基準適用指針第19号「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(令和2年3月31日)第5項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

2. 当事業年度において、非上場株式について11百万円減損処理を行っております。

3. 組合出資金については、企業会計基準適用指針第31号「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(令和3年6月17日)第24-16項を適用し、時価開示の対象とはしていません。

4. 当該項目については、金融商品の時価情報に含まれていません。

▶ その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の種類別残存期間別残高

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期				第68期 令和4年3月期			
	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
債券	2,676	27,469	12,808	28,223	7,626	24,200	10,178	33,937
国債	201	8,519	572	5,913	3,613	4,818	559	7,911
地方債	1,470	8,420	3,534	14,591	1,715	6,271	3,797	17,227
短期社債	—	—	—	—	—	—	—	—
社債	1,003	10,530	8,701	7,717	2,298	13,110	5,822	8,799
その他	6,675	19,339	16,018	27,594	3,535	21,510	13,752	28,073
合計	9,351	46,809	28,827	55,818	11,161	45,711	23,930	62,011

▶ 満期保有目的の債券で時価のあるもの

▶ 金銭の信託の時価等に関する事項 ▶ 公共債ディーリング実績

▶ 先物取引の時価情報 ▶ オフバランス取引の状況 ▶ オプション取引の時価情報

▶ 外国為替取扱 ▶ 子会社株式で時価のあるもの

いずれも該当する取引はございません。

※5ページから8ページの記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

開示債権の状況

当組合は、資産の健全性確保を最重要課題の1つとして取り組んでおりますが、令和4年3月期につきましても、厳正な自己査定を実施し、その査定結果に基づき適切な償却・引当を実施しました。

「協同組合による金融事業に関する法律施行規則」に基づくリスク管理債権と「金融再生法」に基づく開示債権を以下の通り開示いたします。

▶ 協金法開示債権（リスク管理債権）及び金融再生法開示債権の保全・引当状況

(単位:百万円、%)

区分		残高 (A)	担保・保証額 (B)	貸倒引当金 (C)	保全率 (B+C)/(A)	引当率 (C)/(A-B)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	令和2年度	1,463	680	783	100.00	100.00
	令和3年度	1,331	614	716	100.00	100.00
危険債権	令和2年度	2,303	965	979	84.43	73.20
	令和3年度	2,302	902	1,111	87.48	79.40
要管理債権	令和2年度	471	134	32	35.29	9.60
	令和3年度	317	131	16	46.50	8.74
三月以上延滞債権	令和2年度	—	—	—	—	—
	令和3年度	—	—	—	—	—
貸出条件緩和債権	令和2年度	471	134	32	35.29	9.60
	令和3年度	317	131	16	46.50	8.74
小計	令和2年度	4,238	1,779	1,795	84.33	73.00
	令和3年度	3,951	1,649	1,844	88.40	80.10
正常債権	令和2年度	116,708				
	令和3年度	115,049				
合計	令和2年度	120,947				
	令和3年度	119,000				

※百万円未満および小数点第3位以下は切り捨てて表示しております。

(注)

- 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
- 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権（1に掲げるものを除く。）です。
- 「要管理債権」とは、「三月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金です。
- 「三月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金（1及び2に掲げるものを除く。）です。
- 「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金（1、2及び4に掲げるものを除く。）です。
- 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権（1、2及び3に掲げるものを除く。）です。
- 「担保・保証額」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額の合計額です。
- 「貸倒引当金」には、正常債権に対する一般貸倒引当金を除いて計上しております。
- 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」及び「正常債権」が対象となる債権は、貸借対照表の「有価証券」中の社債（その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）によるものに限る。）、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに債務保証見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は賃貸借契約によるものに限る。）です。
- 金額は決算後（償却後）の計数です。

不良債権は3,951百万円ありますが、このうち1,649百万円が担保や保証等でカバーされております。担保や保証等でカバーされていない部分(金額で2,302百万円)に対しても1,844百万円の貸倒引当金を計上しており、不良債権に對

するカバー率は88.40%となっております。さらに組合員勘定(株式会社の自己資本に相当する部分)26,102百万円からみても不良債権が経営に与える影響は僅かであり、経営の健全性を十分に確保しております。

▶ 貸倒引当金の期末残高・期中増減額

(単位:百万円)

項目		期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	令和3年3月期	1,034	1,101	—	※ 1,034	1,101
	令和4年3月期	1,101	1,074	—	※ 1,101	1,074
個別貸倒引当金	令和3年3月期	1,544	1,762	3	※ 1,541	1,762
	令和4年3月期	1,762	1,827	86	※ 1,676	1,827
合計	令和3年3月期	2,579	2,864	3	※ 2,576	2,864
	令和4年3月期	2,864	2,902	86	※ 2,778	2,902

※洗替えによる取り崩し

▶ 貸出金償却の額

(単位:百万円)

項目	第67期 令和3年3月期	第68期 令和4年3月期
貸出金償却	—	—

自己資本の充実の状況等について

自己資本比率

自己資本比率は、貸出金等の「資産（※リスク・アセット等）」に対する出資金や内部留保等の「自己資本」の割合を示す数値であり、金融機関の健全性・安全性を計る重要な指標です。

令和4年3月期の自己資本の額は27,126百万円、自己資本比率は17.16%と国内で業務を行う金融機関の基準4%を大きく上回り、「ひだしん」の財務体質が極めて高い水準にあることを示しています。

当組合の自己資本につきましては、地域のお客さまからの普通出資金による調達を始め、内部留保による資本の積上げ等を行うことにより自己資本の充実を図り、経営の健全性・安全性を保っております。

なお、将来の自己資本の充実策については、各年度毎の事業計画に基づく業務推進を通じて、そこから得られる利益による資本の積上げを第一義的な施策として考えております。

※「リスク・アセット等」とは資産（貸出金や有価証券等）に関する貸倒れの危険性の総量をいい、貸借対照表に記載された各資産に対して、その種類あるいは取引相手の信用リスクの度合いに応じたリスク・ウェイトを乗じて算出します。「パーゼルⅢ」の導入に伴い、従来に比べてリスク・アセット算出の精緻化が図られました。

▶ 自己資本の構成に関する事項

(単位:百万円)

項目	令和2年度	令和3年度
コア資本に係る基礎項目(1)		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員勘定の額	25,155	26,090
うち、出資金及び資本剰余金の額	300	285
うち、利益剰余金の額	24,866	25,816
うち、外部流出予定額(△)	11	11
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,101	1,074
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	1,101	1,074
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	26,257	27,164
コア資本に係る調整項目(2)		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	42	38
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	42	38
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
前払年金費用の額	—	—
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	—	—
信用協同組合連合会の対象普通出資等の額	—	—

▶ 自己資本の構成に関する事項

(単位:百万円)

項目	令和2年度	令和3年度
特定項目に係る10パーセント基準超過額		
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—
特定項目に係る15パーセント基準超過額		
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	42	38
自己資本		
自己資本の額((イ)-(ロ)) (ハ)	26,214	27,126
リスク・アセット等(3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	158,724	150,771
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△770	△467
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△770	△467
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	6,940	7,271
信用リスク・アセット調整額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—	—
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	165,665	158,042
自己資本比率		
自己資本比率((ハ)/(ニ))	15.82%	17.16%

(注)自己資本算出方法を定めた「協同組合による金融事業に関する法律第六条第一項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用協同組合及び信用協同組合連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第22号)」に係る算式に基づき算出しております。なお、当組合は国内基準により自己資本比率を算出しております。

▶ 自己資本の充実度に関する事項

(単位:百万円)

項目	令和2年度		令和3年度	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
イ. 信用リスク・アセット、所要自己資本の額合計	158,724	6,348	150,771	6,030
①標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	159,493	6,379	151,237	6,049
(i) ソブリン向け	3,161	126	3,523	140
(ii) 金融機関向け	18,402	736	19,249	769
(iii) 法人等向け	38,351	1,534	37,182	1,487
(iv) 中小企業等・個人向け	36,361	1,454	36,293	1,451
(v) 抵当権付住宅ローン	3,000	120	3,329	133
(vi) 不動産取得等事業向け	13,737	549	13,360	534
(vii) 三月以上延滞等	683	27	648	25
(viii) 出資等	8,595	343	8,934	357
出資等のエクスポージャー	8,595	343	8,934	357
重要な出資のエクスポージャー	—	—	—	—
(ix) 他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象普通出資等及びその他外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー	18,412	736	10,389	415
(x) 信用協同組合連合会の対象普通出資金等であってコア資本に係る調整項目の額に算入されなかった部分に係るエクスポージャー	1,378	55	1,378	55
(xi) その他	17,409	696	16,947	677
②証券化エクスポージャー	—	—	—	—
③リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	0	0	0	0
ルック・スルー方式	0	0	0	0
マンドート方式	—	—	—	—
蓋然性方式(250%)	—	—	—	—
蓋然性方式(400%)	—	—	—	—
フォールバック方式(1250%)	—	—	—	—
④経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	—	—	—	—
⑤他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	△ 770	△ 30	△ 467	△ 18
⑥CVAリスク相当額を8%で除して得た額	—	—	—	—
⑦中央清算機関関連エクスポージャー	1	0	0	0
ロ. オペレーショナル・リスク	6,940	277	7,271	290
ハ. 単体総所要自己資本額 (イ+ロ)	165,665	6,626	158,042	6,321

(注) 1. 所要自己資本の額=リスク・アセットの額×4%
 2. 「エクスポージャー」とは、資産(派生商品取引によるものを除く)並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額です。
 3. 「ソブリン」とは、中央政府、中央銀行、地方公共団体、地方公共団体金融機関、我が国の政府関係機関、土地開発公社、地方住宅供給公社、外国の中央政府以外の公共部門(当該国内においてソブリン扱いになっているもの、国際開発銀行、国際決済銀行、国際通貨基金、欧州中央銀行、欧州共同体、信用保証協会等のことです)。
 4. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「ソブリン向け」、「金融機関及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことです。
 5. 「その他」とは、(i)~(x)に区分されないエクスポージャーです。具体的には、信用保証協会等による保証付エクスポージャーやオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額などが含まれます。
 6. オペレーショナル・リスクは、当組合は基礎的手法を採用しています。

$$\text{〈オペレーショナル・リスク(基礎的手法)の算定方法〉} = \frac{\text{粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)} \times 15\%}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

 7. 単体総所要自己資本額=単体自己資本比率の分母の額×4%

1. 自己資本調達手段の概要

当組合の自己資本は、出資金及び利益剰余金等により構成されております。なお、当組合の自己資本調達手段は次のとおりです。

2. 自己資本の充実度に関する評価方法の概要

自己資本の充実度に関しまして、自己資本比率は国内基準の4%を上回っており、経営の健全性・安定性を充分保っております。なお、将来の自己資本充実策については、年度ごとに掲げる取支計画に基づいた業務推進を通じ、そこから得られる利益による資本の積上げを第一義的な施策として考えております。

3. 信用リスクについて

信用リスクとは、取引先の倒産や経営財務状況の悪化等により、貸出金やその利息などの回収が困難となり、金融機関が損失を受けるリスクをいいます。当組合では、貸出資産の良質化のため、法令遵守はもとより「財務分析」「信用格付け」の活用、不動産価格の適正評価を行うとともに、営業店への本部指導などを実施しております。

さらに、信用リスク回避のため、特定の業種やお客さまに偏ることのないよう、小口・中口多数取引の推進を図るとともに、定期的なポートフォリオ管理などにより信用リスクを認識する管理態勢を構築しています。

当組合では、信用リスクの評価につきましては、厳格な自己査定を実施しております。

また、信用リスク・アセット額の算定にあたっては、各エクスポージャーに分類のうえ、それぞれに定められたリスク・ウェイトを乗じて算出する「標準的手法」を採用しております。

当該手法の採用にあたり、リスク・ウェイトの判定に使用する格付は以下の4つの適格格付機関を採用しております。

- 株式会社 格付投資情報センター (R&I)
- 株式会社 日本格付研究所 (JCR)
- ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク (Moody's)
- スタンダード・アンド・プアーズ・レーティングズ・サービスズ (S&P)

なお、エクスポージャーの種類ごとに適格格付機関の使い分けは行っておりません。

このような信用リスク管理の状況については、ALM委員会と協議・検討を行うとともに、必要に応じて理事会への報告体制を整備しております。

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に基づき算定するとともに、その結果については監査法人の監査を受けるなど、適正な計上に努めております。

4. 信用リスク削減手法について

信用リスク削減手法とは、組合が抱えている信用リスクを軽減化するための措置をいい、具体的には、預金担保、有価証券担保、保証などが該当します。当組合では、資金使途、返済原資並びに財務内容など、さまざまな角度から融資の可否判断をしており、担保や保証による保全措置は、補完的な位置付けとして認識しております。

ただし、与信審査の結果、担保又は保証が必要な場合には、お客さまへの十分な説明とご理解をいただいた上で、ご契約いただくなど適切な取扱いに努めております。

当組合が扱う担保には、自組合預金積金、不動産等があり、保証には、人的保証、信用保証協会保証、政府関係機関保証、民間保証等がありますが、その手続きについては、適切な事務取扱い及び適正な評価を行っております。

また、手形貸付、割引手形、証書貸付、当座貸越、債務保証、外国為替取引に関して、お客さまが期限の利益を失われた場合には、当該与信取引の範囲内において、預金相殺を用いる場合がございます。

この際、信用リスク削減方策の一つとして、組合の定める各種約定書等に基づき、法的に有効である旨確認のうえ、事前通知や諸手続きを省略して払戻充当いたします。

なお、当組合が採用している信用リスク削減手法は、適格金融資産担保として自組合預金積金、保証として公的・民間保証等が該当します。

民間保証については、適格格付機関が付与している格付により判定しております。

5. オペレーショナル・リスクについて

オペレーショナル・リスクとは、内部プロセス・人・システムが不適切であること、もしくは機能しないこと、または外部事象の発生によって組合が損失を被るリスクのことであり、不適切な事務処理、システムの停止や誤作動、災害発生など、組合経営に重大な影響を与えるリスクの総称です。

当組合では、それらのリスクを適切に管理するため「事務リスク管理規程」及び「システムリスク管理規程」を制定し、適切な管理態勢の整備並びにリスクの軽減に取り組んでおります。

「事務リスク」につきましては、正確な事務処理遂行のため、営業店指導を強化するとともに、各種研修を定期的に行い、事務品質の向上に努めております。

また、事務ミス等を未然に防止するため、自店内検査や監査部による臨店監査等により相互牽制機能の強化を図っております。

「システムリスク」につきましては、災害等によりシステムが正常機能しなくなった場合に備えた「コンティンジェンシープラン(危機管理計画)」を作成し、業務への支障を最小限に抑える体制を構築しております。

これらのリスクに関しては、リスク統括部におきまして協議・検討するとともに、必要に応じて理事会等において報告する体制を整備しております。当組合では、オペレーショナル・リスク相当額の算出について、過去3年間の粗利益額の平均値に基づき算出する「基礎的手法」を採用しております。

6. 株式・出資金等について

上場株式にかかるリスクの認識については、時価評価によるリスク計測によって把握するとともに、設定されたリスク・リミットの遵守状況やストレステストなど複合的なリスク分析を実施し、定期的にALM委員会に報告しています。

一方、非上場株式、子会社株式、その他出資金に関しては、「余資運用基準」などに基づいた適正な運用・管理を行い、適切なリスク管理に努めております。なお、当該取引にかかる会計処理については、当組合が定める「有価証券運用基準」等に従い、適正処理を行っております。

7. 金利リスクについて

○リスクの管理方針及び手続きの概要

金利リスクとは、市場金利の変動によって受ける資産・負債価値の変動や、将来の収益性に対する影響を指し、当組合においては、定期的に評価・計測を行い、ALM委員会と協議検討するとともに、資産・負債の最適化に向けたリスクコントロールに努めております。さらに、銀行勘定の金利リスク(以下、「IRRBB」とする。)について経済的価値の変動額である△EVEを計測しております。

なお、当組合は、四半期期末を基準日として、四半期毎で金利リスクを計測しております。

○金利リスクの算定方法の概要

A. 開示告示に基づく定量的開示の対象となる△EVE及び当組合がこれに追加して自ら開示を行う金利リスクに関する事項

- (a) 流動性預金に割り当てられた金利改定の平均満期
流動性預金に割り当てられた金利改定の平均満期は2.5年です。
 - (b) 流動性預金に割り当てられた最長の金利改定満期
流動性預金に割り当てられた最長の金利改定満期は5年です。
 - (c) 流動性預金への満期の割当て方法(コア預金モデル等)及びその前提
流動性預金への満期の割当て方法については、金融庁が定める保守的な前提を採用しております。
 - (d) 固定金利貸出の期限前返済や定期預金の早期解約に関する前提
固定金利貸出の期限前返済や定期預金の早期解約に関する前提は金融庁が定める保守的な前提を採用しております。
 - (e) 複数通貨の集計方法及びその前提
IRRBBについては保守的に通貨毎に算出した△EVEが正となる通貨のみを対象としております。
 - (f) スプレッドに関する前提
スプレッド及びその変動は考慮しておりません。
 - (g) 内部モデルの使用等、△EVEに重大な影響を及ぼすその他の前提
内部モデルは使用しておりません。
 - (h) 計測値の解釈や重要性に関する説明
△EVEの計測値は、当組合における自己資本比率や有価証券の含み損益等、他の経営指標とのバランスを総合的に勘案し、健全性に問題のない水準にあるものと判断しております。
なお、当組合では、重要性の観点より、ストレス時に大きな影響を与えると考えられる資産・負債をIRRBBの計測対象としております。
- B. 当組合が、自己資本の充実度の評価、ストレステスト、リスク管理、収益管理、経営上の判断その他の目的で、開示告示に基づく定量的開示の対象となる△EVE以外の金利リスクについて、当該金利リスクの計測手法及びリスク量は3ページに記載しております。

8. 連結の範囲に関する事項等

当組合には子会社等として「ひだしんイノベーションパートナーズ株式会社」と「飛騨・高山さるぼぼ結ファンド2号投資事業有限責任組合」があります。飛騨信用組合グループとして連結された財務諸表は、連結財務諸表規則第5条第2項で規定される重要性の原則により、作成しておりません。このため連結財務諸表を基礎とする諸指標は算出しておりませんが連結自己資本比率についてのみ「平成18年金融庁告示第21号」に準じて算出しております。各種経営指標については飛騨信用組合単体のものをご参照ください。

9. 派生商品取引及び長期決済期間取引ならびに証券化取引について

いずれも該当ございません。

信用リスクに関する事項

(リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く)

信用リスクに関するエクスポージャー及び主な種類別の期末残高

(単位:百万円)

エクスポージャー区分	信用リスクエクスポージャー期末残高									
	貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引				債券		デリバティブ取引		三月以上延滞エクスポージャー	
	令和2年度	令和3年度	令和2年度	令和3年度	令和2年度	令和3年度	令和2年度	令和3年度	令和2年度	令和3年度
国内	294,813	293,442	121,518	119,619	78,353	86,115	—	—	537	529
国外	55,768	53,019	—	—	55,768	53,019	—	—	—	—
地域別合計	350,581	346,461	121,518	119,619	134,121	139,134	—	—	537	529
製造業	12,555	12,323	6,624	5,945	5,931	6,378	—	—	2	2
農業、林業	1,215	1,292	1,215	1,292	—	—	—	—	64	58
漁業	40	39	40	39	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	9,650	9,659	9,249	9,159	400	500	—	—	13	18
電気、ガス、熱供給、水道業	5,250	5,496	1,836	1,484	3,414	4,011	—	—	—	—
情報通信業	910	1,000	410	499	500	500	—	—	—	—
運輸業、郵便業	3,565	3,590	2,157	2,283	1,407	1,306	—	—	—	—
卸売業、小売業	16,362	17,384	10,140	10,412	6,221	6,972	—	—	5	27
金融業、保険業	11,994	13,274	1,000	600	10,994	12,674	—	—	—	—
不動産業	18,144	17,975	10,647	10,479	7,497	7,495	—	—	33	31
物品賃貸業	182	168	182	168	—	—	—	—	—	—
学術研究、専門・技術サービス業	295	276	295	276	—	—	—	—	—	—
宿泊業	1,855	1,839	1,855	1,839	—	—	—	—	—	—
飲食業	1,595	1,861	1,595	1,761	—	100	—	—	—	—
生活関連サービス業、娯楽業	1,313	1,496	1,313	1,496	—	—	—	—	—	—
教育、学習支援業	48	42	48	42	—	—	—	—	—	—
医療、福祉	560	535	560	535	—	—	—	—	—	—
その他のサービス	6,458	6,416	6,258	6,216	200	200	—	—	0	0
その他の産業	1,982	1,872	1,732	1,649	250	223	—	—	—	—
国・地方公共団体等	52,255	54,135	9,716	8,384	42,539	45,751	—	—	—	—
個人	53,798	54,115	53,798	54,115	—	—	—	—	417	390
その他	150,544	141,663	837	936	54,765	53,019	—	—	—	—
業種別合計	350,581	346,461	121,518	119,619	134,121	139,134	—	—	537	529
1年以下	24,496	26,781	15,447	15,966	9,048	10,814	—	—	—	—
1年超3年以下	28,377	27,195	7,706	6,719	20,670	20,475	—	—	—	—
3年超5年以下	31,497	29,491	8,670	7,951	22,827	21,539	—	—	—	—
5年超7年以下	24,290	24,184	8,502	8,449	15,787	15,735	—	—	—	—
7年超10年以下	29,682	27,633	16,747	16,961	12,934	10,671	—	—	—	—
10年超	115,294	121,426	62,441	61,528	52,852	59,897	—	—	—	—
期間の定めのないもの	96,943	89,749	2,001	2,041	—	—	—	—	—	—
残存期間別合計	350,581	346,461	121,518	119,619	134,121	139,134	—	—	—	—

- (注)
- 「貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランス取引」とは、貸出金の期末残高の他、当座貸越等のコミットメントの与信相当額、デリバティブ取引を除くオフ・バランス取引の与信相当額の合計額です。
 - 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している者に係るエクスポージャーのことです。
 - 上記の「その他」は、裏付となる個々の資産の全部又は一部を把握することが困難な投資信託等および業種区分に分類することが困難なエクスポージャーです。具体的には現金、預け金、投資信託、固定資産等が含まれます。
 - CVAリスクおよび中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。
 - 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

本事項については、9ページ～10ページ「開示債権の状況」に掲載しております。

業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の額等

(単位:百万円)

区分	個別貸倒引当金						貸出金償却	
	当期増加額		当期減少額		期末残高		令和2年度	令和3年度
	令和2年度	令和3年度	令和2年度	令和3年度	令和2年度	令和3年度		
製造業	48	48	46	48	48	48	—	—
農業、林業	146	124	135	146	146	124	—	—
漁業	27	27	21	27	27	27	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	66	55	64	66	66	55	—	—
電気、ガス、熱供給、水道業	—	0	—	—	—	0	—	—
情報通信業	—	—	—	—	—	—	—	—
運輸業、郵便業	—	—	—	—	—	—	—	—
卸売業、小売業	412	352	264	412	412	352	—	—
金融業、保険業	—	—	—	—	—	—	—	—
不動産業	312	311	333	312	312	311	—	—
物品賃貸業	—	—	—	—	—	—	—	—
学術研究、専門・技術サービス業	—	—	—	—	—	—	—	—
宿泊業	—	—	—	—	—	—	—	—
飲食業	—	—	—	—	—	—	—	—
生活関連サービス業、娯楽業	—	—	—	—	—	—	—	—
教育、学習支援業	—	—	—	—	—	—	—	—
医療、福祉	—	—	—	—	—	—	—	—
その他のサービス	323	438	253	323	323	438	—	—
その他の産業	—	—	—	—	—	—	—	—
国・地方公共団体等	—	—	—	—	—	—	—	—
個人	424	468	424	424	424	468	—	—
合計	1,762	1,827	1,544	1,762	1,762	1,827	—	—

- (注) 1. 当組合は、国内の限定されたエリアにて事業活動を行なっているため、「地域別」の区分は省略しております。
2. 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

リスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの額等

(単位:百万円)

告示で定めるリスク・ウェイト区分	エクスポージャーの額			
	令和2年度		令和3年度	
	格付適用有り	格付適用無し	格付適用有り	格付適用無し
0%	15,048	55,790	13,737	57,419
10%	250	13,226	223	14,741
20%	35,569	60,145	37,533	62,782
35%	—	8,575	—	9,519
50%	23,175	734	28,909	894
75%	—	48,267	—	48,072
100%	13,621	58,341	12,271	56,193
150%	48	284	48	256
250%	6,320	531	3,313	530
合計	94,034	245,898	96,037	250,410

- (注) 1. 格付は、適格格付機関が付与しているものに限ります。
2. エクスポージャーは、信用リスク削減手法適用後のリスク・ウェイトに区分しています。
3. コア資本に係る調整項目となったエクスポージャー(経過措置による不算入分を除く)、CVAリスクおよび中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。

信用リスク削減手法に関する事項

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

(単位:百万円)

ポートフォリオ	適格金融資産担保		保証		クレジット・デリバティブ	
	令和2年度	令和3年度	令和2年度	令和3年度	令和2年度	令和3年度
信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー	2,535	2,486	3,750	3,693	—	—

- (注) 1. 当組合は、適格金融資産担保について簡便手法を用いています。
2. 上記「保証」には、告示(平成18年金融庁告示第22号)第45条(信用保証協会、農業信用基金協会、漁業信用基金協会により保証されたエクスポージャー)、第46条(株式会社地域経済活性化支援機構等により保証されたエクスポージャー)を含みません。

リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

(単位:百万円)

	令和2年度	令和3年度
ルック・スルー方式を適用するエクスポージャー	0	0
マンドート方式を適用するエクスポージャー	—	—
蓋然性方式(250%)を適用するエクスポージャー	—	—
蓋然性方式(400%)を適用するエクスポージャー	—	—
フォールバック方式(1250%)を適用するエクスポージャー	—	—

出資等エクスポージャーに関する事項

▶ 貸借対照表計上額及び時価等

(単位:百万円)

区分	令和2年度		令和3年度	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場株式等	2,963	2,963	3,247	3,247
非上場株式等	6,815	—	7,044	—
合計	9,779	2,963	10,292	3,247

(注) 投資信託等の複数の資産を裏付とするエクスポージャー(いわゆるファンド)のうち、上場・非上場の確認が困難なエクスポージャーについては、非上場株式等を含めて記載しています。

▶ 貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位:百万円)

	令和2年度	令和3年度
評価損益	691	834

(注) 「貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額」とは、その他有価証券の評価損益です。

▶ 出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位:百万円)

	令和2年度	令和3年度
売却益	59	45
売却損	11	—
償却	—	11

(注) 損益計算書における損益の額を記載しております。

▶ 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位:百万円)

	令和2年度	令和3年度
評価損益	—	—

(注) 「貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額」とは、子会社株式及び関連会社の評価損益です。

金利リスクに関する事項

▶ IRRBB: 金利リスク

(単位:百万円)

項番	△EVE		△NII	
	令和2年度	令和3年度	令和2年度	令和3年度
1 上方パラレルシフト	10,248	10,345	252	243
2 下方パラレルシフト	—	—	70	92
3 スティープ化	7,972	8,210	—	—
4 フラット化	—	—	—	—
5 短期金利上昇	—	—	—	—
6 短期金利低下	—	—	—	—
7 最大値	10,248	10,345	252	243
8 自己資本の額	令和2年度 26,214		令和3年度 27,126	

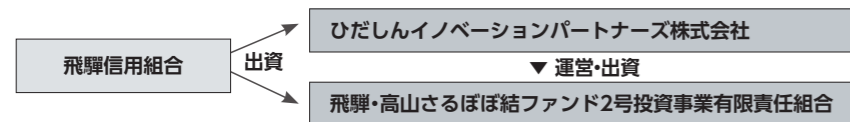
(注) 金利リスクの算定手法の概要等は、「定性的な開示事項」の項目に記載しております。

※△EVEとは、IRRBBのうち、金利ショックに対する経済的価値の減少額として計測され、開示告示に定められた金利ショックにより計算されるものをいいます。

※△NIIとは、IRRBBのうち、金利ショックに対する算出基準日から12ヵ月を経過する日までの間の金利収益の減少として計測されるものであって、開示告示に定められた金利ショックにより計算されるものをいいます。

当組合および子会社等の概況

▶ 飛騨信用組合グループの事業系統図



▶ 子会社等の概況

(令和4年3月末現在)

会社名	所在地	主要業務内容	設立年月日	資本金又は出資金 (百万円)	議決権 所有割合
ひだしんイノベーションパートナーズ株式会社	岐阜県高山市花岡町1丁目13番地1	・投資事業組合財産の運用及び管理 ・株式、社債又は持分その他の有価証券に対する投資業務	平成26年11月7日	10	100%
飛騨・高山さるぼぼ結ファンド2号投資事業有限責任組合	岐阜県高山市花岡町1丁目13番地1	・地域活性化に資する投資業務	平成28年6月10日	277	—

▶ 連結自己資本比率

当組合では、子会社は当信用組合グループの財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいと認められるため、連結財務諸表は作成しておりません。

なお、子会社等のひだしんイノベーションパートナーズ株式会社及び飛騨・高山さるぼぼ結ファンド2号投資事業有限責任組合を含めた連結自己資本比率は下記のとおりであります。

(単位:百万円)

項目	令和2年度	令和3年度
コア資本に係る基礎項目(1)		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員勘定の額	25,179	26,095
うち、出資金及び資本剰余金の額	300	285
うち、利益剰余金の額	24,890	25,821
うち、外部流出予定額(△)	11	11
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	—	—
うち、為替換算調整勘定	—	—
うち、退職給付に係るものの額	—	—
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,101	1,074
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	1,101	1,074
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	26,280	27,169
コア資本に係る調整項目(2)		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	42	38
うち、のれんに係るもの(のれん相当差額を含む)の額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	42	38
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
退職給付に係る資産の額	—	—
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	—	—
信用協同組合連合会の対象普通出資等の額	—	—
特定項目に係る10パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—
特定項目に係る15パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	—	—

▶ 連結自己資本比率

(単位:百万円)

項目	令和2年度	令和3年度
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	42	38
自己資本		
自己資本の額((イ)-(ロ)) (ハ)	26,238	27,131
リスク・アセット等(3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	158,770	150,776
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△770	△467
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	—	—
うち、繰延税金資産	—	—
うち、退職給付に係る資産	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△770	△467
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	6,943	7,274
信用リスク・アセット調整額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—	—
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	165,713	158,051
連結自己資本比率		
連結自己資本比率((ハ)/(ニ))	15.83 %	17.16%

信用リスクに関する事項(証券化エクスポージャーを除く):連結

▶ 信用リスクに関するエクスポージャーおよび主な種類別の期末残高(連結)

【業種別および残存期間別】

影響が僅少であるため記載を省略します。

▶ 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高および期中の増減額(連結)

単体と同一です。

▶ 業種別の個別貸倒引当金および貸出金償却の残高等(連結)

単体と同一です。

▶ リスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの額等(連結)

影響が僅少であるため記載を省略します。

▶ 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー(連結)

単体と同一です。

証券化エクスポージャー・出資等エクスポージャーに関する事項:連結

▶ 証券化エクスポージャーに関する事項(連結)

該当はございません。

▶ 出資等エクスポージャーに関する事項(連結)

影響が僅少であるため記載を省略します。

※単体の各種指標につきましてはP15~17をご参照ください。